

平成 30 年度

事業報告書

社会福祉法人 ふるさと

社会福祉法人ふるさと 平成30年度事業報告「法人本部」

1. 総 括

少子高齢化と人口減少問題を背景に我が国の社会保障制度が迎えている大きな変革期のさなか、診療報酬との同時改定となった平成**30**年度介護報酬改定では、国からの明確な方向性が示された。それは、医療と介護を一体として扱うことにより、医療費と介護給付費を抑制することを主眼に、医療から介護への流れを作ることだった。具体的には、**1)** 地域包括ケアシステムの推進、**2)** 自立支援・重度化防止に資する質の高い介護サービスの実現、**3)** 多様な人材の確保と生産性の向上、**4)** 介護サービスの適正化・重点化を通じた制度の安定性・持続可能性の確保、の**4**点が柱として据えられ、医療からの受け皿を想定した絞り込み（重点化）と評価主義への移行を予期させる内容となった。

こうした事業環境の変化に対応するため、施設・事業所の運営においては重点的に取り組む分野を明確にし、それぞれに問題意識を持てるよう目標設定と達成計画を立て取り組んだ。特に、本改正より入居系サービスでは減算対象となった「身体拘束等適正化への取組み」については、法人全体の共通課題として教育・研修や会議・申し送り等での情報共有の徹底を図ったが、事業所やスタッフによってある不適切ケアに対する認識の相違など新たな課題も見えてきた。また、**7**月に襲来した台風**7**号による長時間停電では、電力喪失に対するハード・ソフト両面での対応力の低さが露呈、特養以外の事業所へは雨水タンクを設置した。併せて、その際機能しなかった災害時マニュアル（災害時事業継続計画（BCP））の見直しも急務となり、外部の助言者のもと有事に機能する計画へと改訂に着手した。

ここ数年の経営課題である人材確保については、年々厳しさが増す中、人材派遣会社との連携や求人誌の活用など新たな採用手段を講じた。結果、**11**名を採用することができたが、うち非常勤は**8**名と、安定した人員体制の確保には至っていない。しかしながら、初めて介護助手として雇用した**2**名については、従来介護士も行った周辺業務（環境美化・送迎・事務等）の一部を担うことができたことから、今後の人材活用の方策の一つとして積極的に取り組んでいきたい。

また、平成**27**年度より導入した業務改善活動（QC活動）については、仕上げの年度となった。サブリーダー（GH等ではリーダー）が中心となって進める職域ごとの活動を主任・管理者・ユニットリーダー等のリーダークラスが見守り、導くという一巡のプロセスを外部講師に頼らず回せるかが課題であった。職域によってチーム体制の問題もあり、全ての職域が独り立ちできたとは言えないが、今ある問題に対し、今できることを、今いる人間で対応するという術を、実践を通して身に着けることができた。

これら法人の経営管理・事業運営を統括する法人本部としては、経営資源である人材、施設・設備、資金を効果効率的に活用するための組織運営について、本部機能の見直しとして次年度に続く組織機構の再編検討や規程の整備を行った。特に長年労務管理部門を担ってきた責任者の退職により、その業務の一部をアウトソーシングするという苦肉の策をとらざるを得なかったが、経営のリスクマネジメントという観点からは、今後も業務効率化のための外部連携やICT化は避けられないこととして情報収集と研究を続けていきたい。

以下に事業所ごとの運営状況を総括する。

(1) 特別養護老人ホームふるさと

延べ満床数 **25,550** 人に対し、入所者数 **25,386** 人（契約率 **99.4%**）

延べ入院者数及び外泊者数 **997** 人（1日平均 **2.7** 人）で前年（**1,029** 人）と比べると入院率は微減したものの、相変わらず医療度の進展の影響がみられる。

— 入退所状況：入所／**21** 人、退所／**22** 人（うち施設内看取り **7** 人）

平均介護度 **4.0**（前年 **3.9**）

(2) 短期入所生活介護（ショートステイふるさと）

延べ利用枠 **3,650** 人に対し、利用者数は **3,164** 人であった。（稼働率 **86.7%**）

前年比 **109.7%**と比較的高位で推移した。

— 平均介護度 **2.7**（前年 **2.9**）

(3) 居宅介護支援センターふるさと

居宅介護支援延べ利用者数 **326** 人（前年比 **98.5%**）、予防介護支援延べ利用者数 **41** 人（前年比 **140.7%**）であった。予防介護支援について前年より急伸したが、地域包括センターからの依頼が増加したことによる。また、地域における公益的取組みである「ふるさとレスキュー事業」との連携や地域における介護予防の啓発活動に努めた。

(4) グループホームふるさと

延べ満床数 **6,570** 人に対し、利用者数 **6,486** 人（契約率 **98.7%**）

延べ入院者数及び外泊者数 **187** 人（1日平均 **0.6** 人）で前年（**99** 人）と比べると入院率が倍増。併せて、不安定な職員体制もあり短期間の入居制限をした影響もあり減収となった。

— 入退所状況：入所／**3** 人、退所／**4** 人

平均介護度 **1.8**（前年 **1.7**）

(5) 第2グループホームふるさと

延べ満床数 **6,570** 人に対し、利用者数 **6,467** 人（契約率 **98.4%**）

延べ入院者数及び外泊者数 **165** 人（1日平均 **0.5** 人）で前年（**256** 人）と比べ入院は減ったものの、GH同様の人員不足に体制が安定せず、一時入居制限をとった影響が出た。

ー 入退所状況：入所／**4** 人、退所／**4** 人

平均介護度 **2.4**（前年 **2.1**）

(6) ふるさとシニアライフサポートセンター（小規模多機能ホームふるさと・サービス付きシニアマンションふるさと）

小多機延べ登録定員 **262** 人に対し、登録者数 **234** 人（契約率 **89.3%**）、マンション延べ入居者数 **210** 人（稼働率 **85.5%**）であった。小多機が前年比 **96.6%**（前年 **242** 人）、マンションが前年比 **93.8%**（前年 **224** 人）の稼働率となり、**2** 期連続で減少が続いている。

ー 利用者異動状況：小多機登録／**3** 人、解除／**4** 人

マンション入居／**3** 人、退居／**5** 人

平均介護度 **1.5**

(7) ふるさとレスキュー事業

第二種社会福祉事業「生計困難者に対する相談支援事業」

県経営協の西彼・西海ブロック幹事法人として、またコミュニティ・ソーシャル・ワーカー（以下、**CSW**）設置法人として、相談受付 **19** 件、うち自法人対応が **5** 件（うち相談支援に至ったもの **1** 件）、他法人への連携 **14** 件であった。昨年に続き長与・時津地区からの相談が多かった。

○重点分野取り組み状況と課題

	当初目標と目標達成計画	取り組み状況と課題
自立支援介護	各事業所の機能に特化したケア 特養：排泄向上・看取りケア・口腔ケア・余暇活動・栄養ケア GH・2GH：認知症対応 サポセン：利用者満足度向上	【取り組み状況】各事業所の生活支援に向けたレク活動や認知症対応についてのQC活動を実施。 【課題】年々医療依存度の高い利用者の受診・入退院が多くなり、医療機関との連携がより必要となっている。

安全対策	<p>リスクマネジメントの強化</p> <p>①法人指針とマニュアルの見直しを図り、事故防止に向けての基本姿勢を養い、具体的な手順を確立する。</p> <p>②緊急対応訓練の定期実施</p>	<p>【取り組み状況】①事故発生時の保険会社との連携・対応が整備できた。特養：行政報告5件（転倒骨折）うち賠償請求2件・GH1件・2GH1件。離設事故が2件あり、隣接住民に有事の協力を依頼。</p> <p>②特養ではQC活動での容態急変時の緊急対応訓練を定期的実施した。</p> <p>【課題】事故対応と原因分析、その後の防止対策の不備が目立ったため、GH・2GHでは離設事故対応マニュアルの整備を行った。</p>
不適切ケア対策	<p>高齢者虐待防止：不適切ケアの撲滅</p> <p>定期の研修と虐待の芽チェックシートでの予防対策を実施継続</p>	<p>【取り組み状況】身体拘束・高齢者虐待・不適切ケア防止に向けて、随時の全体研修や職員の「虐待の芽チェック」を実施し、利用者からの苦情や要望を未然に汲み取れるよう努めた。</p> <p>【課題】各事業所の認識のずれや甘さがあり、GHの不適切ケア（行政報告）が生じてしまった。</p>
ケアマネジメント	<p>介護支援専門員の増員：現ケアマネのQC活動（記録、手順の整備と多職種への応援）と現職員の資格取得支援</p>	<p>【取り組み状況】法人ケアマネ会議により、スキルアップと情報共有がなされ、各施設の機能にあった対象者のスムーズな入所が可能となった。</p> <p>【課題】ケアマネ人員不足が解消とはならず、後進の育成が不十分であった。</p>
防災対策	<p>災害時の対応徹底</p> <ul style="list-style-type: none"> ・火災予防対策：継続 ・避難訓練実施：法人合同での訓練実施及び夜間の招集訓練・アクセス・駐車場の確保と周知 ・防犯対策：不審者マニュアルでの定期訓練実施 ・緊急連絡時の確保：緊急連絡一斉メールの創設 	<p>【取り組み状況】火災報知機と自動通報装置連動工事を施工、防災計画に基づく訓練、消防署指導の訓練を実施した。また、法人BCP計画や防災教育の全体研修や外部講師指導のもと、各事業所の管理者らにより詳細内容を検討しBCP計画の完成を目指した。</p> <p>【課題】防犯訓練実施が不十分だった。緊急連絡方法について来年度の課題とする。</p>

<p style="text-align: center;">環境衛生</p>	<p>①感染症対策の徹底：結核・インフルエンザ等の予防対策の継続</p> <p>②施設内美化：清掃を業務に組み込むQC活動を実施</p>	<p>【取り組み状況】 ①指針マニュアルの実践、利用者のインフルエンザ発症（特養・ショート 2 名罹患（感染なし）、2GH（感染・発症 6 名） 予防投薬は、施設内感染のリスクがある方のみならず、職員家族が感染した場合の濃厚接触者にまで拡大して実施し、勤務に支障なく済んだ。</p> <p>②QC活動及び、介護サポーターの雇用で昨年度に引き施設内美化を業務に取り組み、利用者家族からの苦情は減少した。</p> <p>【課題】 ①特に 2GH は 2 週間にわたり対応に追われ法人でのフォローが必要となった。危機管理体制の整備が急務となった。</p>
<p style="text-align: center;">人材育成</p>	<p>①法人組織の強化と質の向上 管理者・リーダー・サブリーダー 次世代研修及びQC活動の継続実施 資格取得支援：キャリアアップ モチベーションアップ（介護福祉士ケアマネ・管理栄養士・実務者・喀痰吸引研修他・アセッサー認定を 1 人/6 ヶ月を目標）</p> <p>②人事考課の整備 人事考課の流れを確立するために職務分掌（職責）の整備をし、目標面接の充実を図る（面接者の指導強化）</p>	<p>【取り組み状況】 ①各事業所 QC サークルの実践・ストレングスコーチング実施し、リーダーシップとチームビルディングを学び実践につなげた。</p> <p>資格取得 介護福祉士 3 人 アセッサー認定 1 人 介護職初任者研修 1 人 実務者研修 2 人 認知症実践者研修 2 人 社会福祉主事 1 人 特定行為業務従事者認定者（喀痰吸引） 1 人</p> <p>②人事考課の流れを確立するために職務分掌表（職責）の整備と、評価者研修、コーチングを活かし、人事育成・指導を重点目的とした目標面接を実施、評価者のスキルアップ、チャレンジシートを導入できた。</p> <p>【課題】 ②GH・2GH は管理者交代や異動で法人での対応となった。</p>

<p style="text-align: center;">福利厚生</p>	<p>①ユニホーム上衣支給:3枚/1人 ネット入り</p> <p>②職員休憩室の確保:グループホーム第2グループホーム</p> <p>③年休取得率引き上げ: ・目標;現在取得率30%を35%へ ・1日/月の年休を取得 ・時間休を導入</p> <p>④衛生指導:健康増進のための特養職員(介護職遅出)へ食事提供と丁寧なメンタルヘルスチェック</p> <p>⑤職員旅行の助成:リフレッシュと懇親</p>	<p>【取り組み状況】①ユニホーム支給は次年度に持越し</p> <p>②2GH 改築に伴う休憩室を完備した。GHは整理整頓によりスペース確保特養・駐車場整備完了</p> <p>③年次有給休暇の時間休を導入し、職員の子育て支援に寄与できた。年間取得率33.8%</p> <p>④衛生管理者による、健康指導と食育指導を実施した。遅出の食事提供は次年度開始予定</p> <p>法人職員の約3.5%がメンタル面の不調訴え、病気休暇取得、または勤務しながらの治療を継続するなど、法人組織としての支援が課題となった。</p> <p>⑤職員旅行クラブ発足、一泊旅行実施し、一部費用を法人で助成した。</p>
<p style="text-align: center;">地域との交流</p>	<p>①レスキュー事業の継続</p> <p>②介護予防出前講座を拡充(栄養士・介護職・看護師等による自立支援のための講義と演習を加える)</p> <p>地域住民への支援:地域の独居高齢者への誕生会や行事の招待</p> <p>高齢者有償ボランティアの促進:屋内外の美化と利用者との懇親 次世代の利用につなげる</p>	<p>【取り組み状況】①法人で継続実施した。詳細は別紙</p> <p>②公民館単位で居宅管理者、小規模多機能居宅介護職員・特養栄養士等による、介護予防リハビリ・介護保険サービス紹介、食中毒・脱水予防等講座を実施した。また、栄養士が地域の民泊事業のメニュー開発支援協力に参加した。</p> <p>【課題】初めての介護サポーター雇用を通し、職務分掌を作成した。今後、これを基に高齢者雇用を促したい。</p>

法人本部	<p>①法人サービス全般の是正 法人内部監査の導入：3回/年 各事業所のケアチェック・経理チェック・設備チェック 基準シート作成し理事 管理者でチェックを行い、サービスの標準化を目指す</p> <p>法人本部の強化：事務所の機能とスキルアップ</p> <p>②人材確保 採用者の発掘（広告 依頼 学校訪問 面談会参加）目標：介護職 5人 ケアマネ 1人 離職者防止 予算の確保</p>	<p>【取り組み状況】①GH・2GHにおいて、業務運営の標準化がなされていないことが問題として顕著化し、労務管理も含み職員組織の運営面でのフォローが必要となった。また、組織統治力を高めるため研修の実施、各種規程の整備を行った。</p> <p>②様々な求人面談会に参加するも、新規卒採用は昨年に引き続き 0人であった。求人情報誌による募集で 3人を採用。また、派遣・紹介会社から 3人採用するが、慢性的な人員不足は解消されず。介護サポーターを新たに募集し 1人採用した。また、法人イメージの向上のためホームページをリニューアルした。</p> <p>(30年度離職率 8.9%)</p> <p>【課題】②高卒者の採用に向けて各学校への訪問について検討したい。</p>
------	--	---

2. 会務報告

(1) 理事会

回	日時	出席者	議題	場所
1	H30.5.22 10:00～	理事：5名 監事：2名	(決議事項) ①平成 29 年度事業報告及び決算の承認について ②定款細則の一部改正について ③平成 30 年度定時評議員会の招集について ④空調機器への添加剤注入工事について (報告事項) ①理事長の職務執行状況の報告	村田経理事務所 会議室
2	H30.9.3 11:00～	理事：6名 監事：2名	(決議事項) ①業績給制度導入に伴う職員給与規程の改定について (報告事項) ①各種整備事業の進捗状況について	村田経理事務所 会議室
3	H30.12.5 16:40～	理事：6名 監事：2名	(決議事項) ①平成 30 年度第 1 次補正予算 (案) の承	ホテルオー クラハウス

			認について ②100万円を超える契約の承認について ③法人の基幹規程制定の決議について ④就業規則訂正の承認について ⑤地域における公益的取り組みについて (報告事項) ①理事長の職務執行状況の報告	テンボス
4	H31.3.20	理事：6名 監事：2名	(決議事項) ①平成30年度第2次補正予算(案)の承認について ②平成31年度事業計画(案)の決議について ③平成31年度事業予算(案)の決議について ④就業規則改正(案)の決議について ⑤経理規程変更(案)の決議について ⑥稟議及び事務決済規程変更(案)の決議について ⑦諸規程訂正の承認について ⑧情報公開規程変更(案)の承認について ⑨平成31年度役員報酬等の総額について ⑩建物損害調査及び地震保険コンサルティング業務契約について (報告事項) ①理事長の職務執行状況の報告	村田経理事務所 会議室
※	提案日 H30.7.12 決議日 H30.7.17	決議の省略	(提案事項) ①臥床浴槽競争見積参加候補者について	

(2) 評議員会

回	日時	出席者	議題	場所
1	H30.6.7 16:00~	評議員：5名 理事：6名 監事：2名	(決議事項) ①平成29年度決算の承認について (報告事項) ①平成29年度事業報告	ホテルオー クラハウス テンボス

			②定款細則の一部改正について ③平成30年度事業のうち重要な事項について	
--	--	--	---	--

(3) 監事監査

回	日時	出席者	内容	場所
1	H30.5.15 17:00～	監事：2名 理事長	①平成29年度事業並びに平成29年度決算の監査	特養ふるさと会議室

2. 社会福祉法人制度改革への対応

改正社会福祉法（平成29年4月1日施行）に基づき下記対応をとった。

- (1) 情報開示：現況報告書、財産目録、計算書類、役員名簿、役員報酬規程等について、6月末までに所轄庁（西海市）に提出の上、ホームページで公表した。
- (2) 社会福祉充実残額の計算：「社会福祉法人の財務諸表等電子開示システム」において公開された計算シートに沿って算定した結果、社会福祉充実残額は無しであった。

3. 地域における公益的取り組みについて（法24条2項関係）

(1) ふるさとレスキュー事業

長崎県内の複数の社会福祉法人による社会貢献事業「生計困難者レスキュー事業」に参加し、生活困窮者に対する相談支援事業を実施。県経営協の西彼・西海ブロック幹事法人として、またコミュニティ・ソーシャル・ワーカー（以下、CSW。）設置法人として、問い合わせ・相談受付19件について対応した。内14件を他法人へ繋ぎ、1件について直接相談支援した。昨年に引き続き、長与・時津地区からの相談が多かった。

(2) 「介護教室」「出前講座」等の開催及び講師の派遣

○7月12日（木）11:00～12:00

川内地区安心安全講習会で、介護保険制度、熱中症について講習を行った。

（60名参加）

○2月20日（水）

大瀬戸町のNPO法人が取り組む民泊事業のヘルシーメニュー開発支援に管理栄養士2名が参加し、郷土食の良さを活かしながら栄養素や栄養価のバランスとれたメニュー開発の指導を行った。

○2月25日(月)11:00~12:00

木場地区「いきいき体操教室」にて、脳トレ教室の実演などを交え、介護保険制度やサポートセンターの機能・利用等について説明し、住民と意見交換した。

(3) 「西海市の子供たちへの文化振興活動」への支援

市内地域づくり団体が主催する文化教育振興活動に対し、事務局機能の一部を補佐するなどして事業の推進をサポートした。(H30 第3回理事会5号議案関係)

4. 規程等の制定及び改定

- ① 就業規則の改定(法改正及び業績給導入に伴う改定)
- ② 定款細則の改定
- ③ 経理規程の改定
- ④ 法人基幹規程の制定
 - ・ 組織規程
 - ・ 法令遵守規程
 - ・ コンプライアンス委員会規程
 - ・ 文書管理規程
 - ・ 稟議及び事務決裁規程
- ⑤ 情報公開規程の改定(法令対応のため)

5. 行政による指導監査

(1) 西海市法人指導監査(10月5日)

指摘事項：なし。その他助言として、①役員選任の経過に関する議事録の記載について ②計算書類の注記について会計区分の記載について

(2) 長崎県特養実地指導(12月20日)

指定介護保険法に基づく指定介護老人福祉施設等の実地指導。
指摘事項なく運営面で概ね良好との評価。

(3) 西海市グループホーム指導監査(2月14日)

口頭指導：重要事項の掲示について

自己評価・外部評価の掲示について

6. 防災・防犯対策

(1) 防災対策

- ・ ふるさと非常災害対策計画（BCP）の見直しと改訂

※台風7号による大規模停電を受けて

- ・ 地域連携防災協力会議の実施

(2) 防犯対策

- ・ 防犯対策研修の実施（不審者対策マニュアルの周知と留意点について）

7. 主な法人行事

行事名	日付	参加等	備考
平成30年度 家族会総会（上半期）	30.4.15	52 家族	平成29年度事業報告及び決算、 平成30年度事業計画及び予算、 役員改選 他
第43回ふるさと夏祭り	30.7.28	478 名	利用者 121 名、来賓・地域・職 員関係 114 名、家族 220 名、ボ ランティア 23 名、他職員
平成30年度 家族会総会（下半期）	30.9.17	58 家族	平成30年度上半期事業報告及び 会計報告 他
ふるさと敬老式典並びに敬 老演芸会	30.9.17	115 名	来賓 55 名・家族会、職員 115 名
平成30年度 地域連携防災協力会議	30.11.26	60 名	講話：東消防署西彼出張所 行政・消防署・消防団・自治会 関係者出席

8. 研修・教育

(1) 業務改善（QC）活動研修

講師：秋満直人氏 場所：特養研修室

月日	研修内容	参加者・人数
4/12	サブリーダー研修① 仕事改革：問題解決のプロセス・業務効率化	各職域リーダー・サブリーダー 16 名
4/12	管理者・リーダー研修① 業務改善活動：目標設定とリーダーシップ	各職域管理職（主任・管理者・リ ーダー） 17 名
6/29	QCサークルレビュー① ・テーマ設定と進め方の確認	10 職域（各 35 分） 推進員を中心に他職員参加
8/20	QCサークルレビュー② ・現状把握と目標設定の確認	10 職域（各 35 分） QC 推進員を中心に他職員参加

11/20	QCサークルレビュー③ ・要因解析と対策立案の確認	10 職域（各 35 分） QC 推進員を中心に他職員参加
1/28	QCサークルレビュー④ ・効果検証と発表資料の確認	10 職域（各 35 分） QC 推進員を中心に他職員参加
3/5	管理職リーダー研修② 30 年度 QC 活動の振り返り	各職域管理職（主任・管理者・リーダー） 18 名
3/5	サブリーダー研修② 振り返りと活動発表（全体研修会にて）	各職域リーダー・サブリーダー 16 名 発表：全職員

(2) コーチング研修

講師：山本素子氏 場所：特養内

月日	研修内容	参加者・人数
5/7	課題抽出のためのグループセッション	各職域管理職（主任・管理者・リーダー） 19 名
5/21	コーチング研修① 目標面接研修 I	各職域管理職（主任・管理者・リーダー） 12 名
6/4 5 11	個別コーチング① 各自 50 分	各職域管理職（主任・管理者・リーダー） 15 名
8/24	グループコーチング研修① 各チームの特徴と留意点の把握	各職域管理職（主任・管理者・リーダー） 15 名
10/2	コーチング研修② 目標面接研修 II	各職域管理職（主任・管理者・リーダー） 9 名
11/5	グループコーチング研修② 職域別フォローの事前ヒアリング	各職域管理職（主任・管理者・リーダー） 20 名
1/8	グループコーチング研修③/職域フォロー 職域の課題抽出と解決の方向性	施設・事業所の各職域職員

(3) 幹部研修

講師：秋満直人氏 場所：特養内

月日	研修内容	参加者・人数
1/5	幹部研修 高齢者福祉の環境とこれからの法人経営 中期ビジョン（中期計画策定に向けて）	法人役員・役職員 8 名

(4) 施設外研修

月日	研修内容	場所	参加対象・人数
4/19	雇入れ時安全衛生教育（指導者養成研修）	県総合福祉センター	衛生管理者 1名
4/22	通知・Q&A 疑義解釈の徹底解説	長崎商工会議所	相談員・事務員 2名
4/28	西海市社会福祉大会	大島文化ホール	理事長・相談員 2名
5/10	第125 自衛消防隊研修課程入校	大村長崎消防学校	職員 3名
5/17	合同面談会事前説明会	県総合福祉センター	本部管理職 1名
5/25	平成30年度雇用主説明会	アルカス SASEBO	本部管理職 1名
5/26	長崎県ケアマネ研修会	県総合福祉センター	ケアマネ 3名
6/4	老協第1回総会・研修会	ホテルニュー長崎	理事長 1名
6/6	企業と高等学校進路指導者との情報交換会	西彼総合支所	本部管理職 2名
6/8	平成30年度西海市福祉施設連絡協議会総会・講演会	西海市総合福祉センター	理事長・職員 6名
6/12	県経営協第1回総会・研修会	県総合福祉センター	理事長・理事 3名
6/16	福祉の合同面談会	県総合福祉センター	本部管理職 2名
6/20	認知症高齢者の食支援研修会	県総合福祉センター	GH 調理員 2名
6/22	施設看護師研修会	県市町村会館	看護師 1名
6/29	地域ケア全体会議	西彼保健センター	理事長・居宅管理者 2名
7/3.4	CareTEX2018 専門セミナー	マリンメッセ福岡	理事長・理事 2名
7/6	地域連携研修会「糖尿病患者のケア」	川棚医療センター	看護師 1名
7/10	西海市高校3年及び保護者対象企業背説明会	西彼総合支所	役職員 3名
7/12	長崎医療介護人材開発講座	長崎県医師会館	理事長 1名
7/18	TKC社福セミナー	TKP 博多駅シティセンター	理事長 1名
7/19	これで安心 高齢者の急変時対応	県総合福祉センター	看護師・介護職 2名
7/19	西海市福祉施設連絡協広報・交流部会	西海市総合福祉センター	職員 1名

7/24	長崎県知事表敬訪問及び県福祉保健部長との意見交換会	長崎県庁	理事長 1名
7/24	平成30年度電子申請（雇用保険手続き）利用方法説明会	西海ハローワーク	本部役職員 2名
7/31	平成30年度西海市社協 在宅福祉課研修会	西海市総合福祉センター	居宅管理者 1名
8/3	平成30年度給食施設研修会	長与町南交流センター	厨房役職員 2名
8/17	長崎県経営協前期セミナー	ホテルニュー長崎	理事長 1名
8/23・24	基礎から学ぶ会計実務	全社協ビル（東京）	理事長 1名
8/23	平成30年度西彼圏地域ケア会議	西彼保健センター	居宅管理者 1名
8/24	平成30年度介護サービス事業者集団指導	佐世保市コミュニティセンター	事務職・ケアマネ 2名
8/29	虐待防止研修会	県総合福祉センター	職員 5名
9/4・5	介護のしごと魅力伝道師研修	長崎県庁	伝道師登録職員 1名
9/12	拘縮・褥瘡予防研修会	県総合福祉センター	職員 2名
9/14	食事を意識した車いすシーティング	県総合福祉センター	職員 4名
9/19	2018 年総合展示商談会	佐世保卸団地組合会館	調理員 2名
9/20・21	全国社会福祉法人経営大会	長野県オクトホール	理事長・理事 2名
9/29	施設ケアマネジャー研修会	サンスパおおむら	ケアマネ 1名
10/13	長崎県国保地区医療学会	長崎原爆資料館ホール	職員 4名
10/13	症例で学ぶ栄養マネジメントと実務研修会	県総合福祉センター	管理栄養士 1名
10/16	新規高等学校予定者合同企業面談会	佐世保体育文化会館	役職員 3名
10/17	自立支援型地域ケア会議実践者研修	長崎ブリックホール	居宅管理者 1名
10/18	平成30年度老協施設研修会	長崎ウェスタンプレミアムホテル	本部管理職 1名
10/18	全国老協 タウンミーティング	長崎ウェスタンプレミアムホテル	本部管理職 1名
10/18	西海市医療検討委員会先進地視察研修	山梨県身延町飯富病院	理事長 1名
10/20	相談援助の課題と生活相談員の役割研修会	長崎大学	相談員 1名

10/29	全国経営協「広報発信力強化セミナー」及び「ライター養成講座」	ホテルニューオータニ博多	職員 2名
11/3	「いいね いいまち いい介護 in 長崎」	長崎ベルナード通り	理事長・伝道師職員 2名
11/10	施設や地域で働く看護職の交流会	ながさき看護センター	看護師 1名
11/14	福祉のしごとミニ面談会	ハローワーク西海	役職員 2名
11/19	実技で学ぶ効果的な個別機能訓練研修会	県総合福祉センター	訓練職員 2名
11/19	平成30年度入所型高齢者給食施設研修会	西彼保健所	管理栄養士 2名
11/22	こころ医療専門学校就職面談会	こころ医療佐世保校	役職員 2名
11/27	平成30年度市施設協 感染症対策研修会	西海市総合福祉センター	厨房職員 2名
11/28	職場定着支援セミナー「職業人間力向上講座」	西彼総合支所	職員 3名
11/28	平成30年度成年後見実務研修会	佐世保中央公民館	相談員 1名
11/29	平成30年度老施協第2回職員研究発表会	ホテルニュー長崎	職員 4名
12/3	平成30年度自立支援型地域ケア会議実践研修会	アルカスSASEBO	ケアマネ 1名
12/8	嚥下調整食学会分類2013研修会	長崎松藤プラザ	管理栄養士 1名
12/13	D-WAT 養成基礎研修	TKPガーデンシティPREMIUM博多前	DWAT 登録者看護師 1名
12/19	長崎県経営協セミナー	長崎総合福祉センター	理事長・理事 3名
1/11	福祉の合同面談会事前研修会	県総合福祉センター	管理職 1名
1/19	福岡県経営協 特別セミナー	ANAクラウンプラザホテル福岡	理事長 1名
1/23	排泄ケアセミナー 介護機器展示会	NBC別館ビデオホール	役職員 4名
1/30	福祉の現場の労務管理研修会	県総合福祉センター	役職員 2名
1/31	老施協特養・デイサービス部会	長崎ブリックホール	理事長 1名
2/12	第2回地域ケア全体会議	西彼保健センター	理事長・居宅管理者 2名
2/14	生計困難者レスキュー事業全体会議	県総合福祉センター	理事長・役職員 3名
2/15	不在者投票指定施設説明会	県北振興局	相談員 1名
2/16	平成30年度福祉・介護の就職合同面談会	県総合福祉センター	役職員 2名

2/21	平成 30 年度認定調査員現任研修	アルカス S A S E B O	居宅管理者 1 名
2/22	平成 30 年度長崎地域リハビリテーション広域支援センター西海市ブロック	西彼保健センター	理事長・居宅管理者 2 名
2/27	平成 30 年度西彼地域在宅医療・介護連携強化研修会	西彼保健所	居宅管理者 1 名
3/12	第 1 回地域連携学習会	セントノーヴァ病院	居宅管理者 1 名
3/12	平成 30 年度長崎県災害派遣福祉チーム研修会	県総合福祉センター	相談員 1 名
3/13	平成 30 年度経営協第 1 回組織委員会および第 1 回研修・広報委員会 合同委員会	県総合福祉センター	理事長 1 名
3/15	平成 30 年度県老協第 2 回総会	A N A クラウンプラザホテル長崎	理事長 1 名
3/19	介護事業者向け介護人材セミナー	アルカス S A S E B O	管理職 1 名
3/22	平成 30 年度西海市地域密着型サービス事業者に対する集団指導	大瀬戸保健センター	役職員 7 名
3/23	平成 30 年度県介護支援専門員第 11 回研究大会	シーハットおおむら	居宅管理者 1 名

(5) 施設内研修

場所：特養内

月日	研修内容	講師	参加者・人数
4/23	緊急対応研修	医務室	特養職員 12 名
5/8	緊急対応研修	医務室	職特養員 12 名
5/14	新任研修（理念・基礎概論）	理事長	採用職員 7 名
5/16	緊急対応研修	医務室	職特養員 9 名
6/5	緊急対応研修	医務室	特養職員 9 名
5/22	緊急対応研修	医務室	職員 9 名
6/28	リスクマネジメント研修	秋満直人氏	全職員 82 名
7/5	新任研修（看取り教育）	看護主任	8 名
8/17	新任研修（身体拘束適正化）	研修室長	2 名
9/5	新任研修（理念・基礎概論）	理事長	2 名

12/11～ 13	事故防止・身体拘束・苦情対応等	研修室長	29名
1/18	勤怠管理ソフト導入研修	エムケイシス テム	役職員 15名
1/21	法人規程研修	大宅行政書士	役職員 24名
1/25	災害時BCP策定に向けての指導	国弘企画 濱 田氏	防災担当職員 1名
2/5	業務効率化推進研修	(福)清恵会 長浦先生	役職員 19名
2/28	災害時BCP策定研修	国弘企画濱田 氏	担当職員 4名

(6) 月例研修

実施月	参加人数	研修内容
4月	70	30年度上半期永年勤続表彰、30年度事業計画について、介護報酬改定について、本年度研修について、服務規律・感染対策・労務管理ほか
5月	71	29年度事業報告・決算について、職場環境づくりについて、感染対策・食中毒予防、熱中症対策ほか
6月	82	リスクマネジメント研修（外部講師による）
7月	81	夜間出動訓練、熱中症対策、復命報告、防災対策（台風7号）、夏祭りの業務確認ほか
8月	78	永年勤続表彰、夏祭り総括、敬老会準備、災害対策グループワークほか
9月	75	敬老会総括、老年学について、復命報告、感染対策、高齢者の疾病について ほか
10月	85	業績給制度導入について（対象者のみ）、褥瘡予防、ご家族アンケート結果について、永年勤続表彰、看取り教育ほか
11月	85	永年勤続表彰、教育研修の意義について、防災対策、感染対策、事故対策ほか
12月	69	法人内不適切ケアの報告と防止、復命報告、感染対策ほか
1月	72	感染対策、法人研修計画について、業績給制度導入の効果、法令遵守について（規程の説明）、感染対策ほか
2月	76	長崎県災害派遣福祉チーム登録証の授与、コンプライアンス・処遇改善加算・労務管理について、人事考課制度について
3月	—	翌年度4/1期首事業方針研修会に振替

(7) 資格取得支援

研修名（支援資格）	受講回数	受講者
初任者研修（介護福祉士）	15	廣瀬美月
実務者研修（介護福祉士）	7×2名=14	寄能莉那・太田弥宏

- 資格取得者 介護福祉士/3名・社会福祉主事/1名・認定行為従事者/1名

9. 助成・補助事業

○ 平成30年度人材確保等支援助成金（介護福祉機器助成コース）

事業名：特別養護老人ホームふるさと「特殊浴槽入替事業」

事業計画

- ・整備内容／シルフィード浴槽（酒井医療）の設置導入
- ・事業費／6,788,880円
- ・補助金／1,500,000円
- ・完了日／H30.9.25
- ・納入業者／（株）富士医科精器

10. その他報告すべき主な事業

(1) 空調機器添加剤注入工事

- ・整備内容／特養.サポセン.GHの空調機器へ電気量削減のために添加剤注入
- ・施工業者／テックスインターナショナル（株）
- ・事業費／7,757,585円
- ・施工日／H30.6.22～6.26
- ・削減効果／経年劣化・気温影響を加味した削減率は26.8%。

電気料の値上がり13%を加味しても年間削減額は特養で730,788円となった。

(2) 特養職員駐車場整備

- ・整備内容／特養職員駐車場舗装工事
- ・施工業者／（株）クボタ
- ・事業費／3,650,000円
- ・施工日／H30.8.1～9.10

(3) 第2グループホームふるさと施設整備

- ・整備内容／老朽箇所改修及び職員休憩室の増設
- ・施工業者／（株）小山建設
- ・事業費／9,200,000円
- ・施工日／H30.8.3～H31.2.28

(4) 業績給制度の導入

- ・実施内容／業績給制度導入による社会保険料の適正化と賃金改善
- ・委託者／ウェルフェア・J・ユナイテッド（株）
- ・適正効果／3,037,199円（下半期分）
- ・契約日／H30.9.3

(5) 給与計算等業務委託契約

- ・委託内容／給与計算、年末調整事務等労務管理に係る業務委託
- ・施工業者／吉木労務管理事務所
- ・委託費／1,660,000円（年間）
- ・契約日／H30.12.6

11. 職員異動

	増				減				病休		産休 育休	
	採用		異動		退職		異動					
	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	常勤	非常勤	病休	復帰	産育休	復帰
特 養	2	5	1	1	2	5	3	1	2	5	1	1
グループ ホーム	0	1	3	0	1	0	1	0	0	1	3	0
第2グループ ホーム	0	1	1	0	1	0	0	0	0	1	1	0
サポート センター	1	1	0	1	2	0	0	0	1	1	0	1
計	3	8	5	2	6	5	4	1	3	8	5	2
介護職	1	6	4	2	4	3	3	1				
看護職	0	0	0	0	0	0	0	0				
ケアマネ	0	0	0	0	1	0	0	0				
事務・調理	2	2	1	0	1	2	1	0				

以上

平成 30 年度事業報告

「特別養護老人ホームふるさと・短期入所生活介護」

1. 事業概況

平成 30 年度の入所者状況は、在籍率は **99.4%** と昨年度とほぼ横ばいであった。年平均介護度は **4.0** と昨年度より **0.1** 重くなっている。入院数は一日平均 **2.7** 人で、年平均入所者数は **66.8** 人。年々重度化しており、医療依存度が高い利用者が増えてきている状況である。

退所者は **22** 人で昨年より **7** 人減少。内、長期入院のための退所が **11** 人、死亡退所が **11** 人、内医療機関での死亡が **2** 人、施設での看取りケアを **7** 人実施している。年々、在所期間が短くなる傾向に伴い、入所者の確保にも影響を及ぼしている。

短期入所利用状況については、一日平均 **8.6** 人。昨年より **0.7** 人増加し、稼働率も高く、特養の空所利用を **5** 人で計 **14** 日利用、年間の稼働率も **86.7%** で昨年より **7.7%** 増加した。

感染対策として、今年度もインフルエンザの流行が早く **1** 月～**3** 月まで面会制限を実施し、利用者への感染を防止に努めたが、特養利用者、短期入所利用者 1 名ずつの罹患があり、嘱託医と連携を取りながらまん延防止に努めた。

職員研修は、昨年と引き続き、管理者・リーダー・サブリーダーを中心に業務改善活動の推進を実施している。また、管理者・主任等のコーチング研修等で、より組織力・機動力をアップしたチームケアを目指した。加えて、本年度は介護の重点課題として、年間を通してご家族、ご利用者の要望に応えるべく、「不適切ケア」の一掃のための基礎的研修を強化し、サービスの質の確保に努めた。

キャリアパスとして、アセッサー制度によるレベル認定の促進や介護支援専門員・介護福祉士・喀痰吸引等の様々な資格取得支援を継続している。

防災対策として、総合的に防災対策を進めている。

地域貢献事業として、「生計困難者レスキュー事業」の西彼・西海ブロック幹事法人として生活相談員が当法人居宅支援事業所管理者と協働し、相談・支援対応している。

2. 特別養護老人ホームふるさと利用状況

(1) 延入所者数状況 (満床数 25,550 人)

延入所者数は **25,386** 人で稼働率は **99.4%** うち、延入院者数は **997** 人で一日 **2.7** 人、延実利用者数は **24,389** 人で平均入所者数 **66.8** 人

年月日	延入所者数 (在籍者)	延入院者数	延実利用者数 (在籍者－入院者)
平成 30 年 4 月	2,096	104	1,992
平成 30 年 5 月	2,162	85	2,077
平成 30 年 6 月	2,090	91	1,999
平成 30 年 7 月	2,167	79	2,088
平成 30 年 8 月	2,160	42	2,118
平成 30 年 9 月	2,094	109	1,985
平成 30 年 10 月	2,109	70	2,039
平成 30 年 11 月	2,095	22	2,073
平成 30 年 12 月	2,153	56	2,097
平成 31 年 1 月	2,145	86	2,059
平成 31 年 2 月	1,954	123	1,831
平成 31 年 3 月	2,161	130	2,031
合 計	25,386	997	24,389
30 年度	稼働率 99.4%	一日平均 2.7 人	平均入所者数 66.8 人

(小数点第 2 位四捨五入)

(2) 月別入退所者数の状況

年間入所者数 **21** 人 退所者数 **22** 人の内、死亡退所が **11** 人、(施設での死亡 **9** 人で看取りケア実施が **7** 人、医療機関での死亡 **2** 人) 長期入院のための退所が **11** 人

年月日	一日現在 入所者数	月内の異動		平均介護度
		入 所	退 所	
平成 30 年 4 月	70	0	1	3.9
平成 30 年 5 月	69	1	1	3.9
平成 30 年 6 月	69	3	2	3.9
平成 30 年 7 月	70	1	2	4.0
平成 30 年 8 月	69	2	2	4.0
平成 30 年 9 月	69	1	2	4.0
平成 30 年 10 月	68	6	6	4.0
平成 30 年 1 月	69	2	0	4.1
平成 30 年 12 月	70	1	2	4.1
平成 31 年 1 月	69	2	1	4.1
平成 31 年 2 月	70	1	1	4.1
平成 31 年 3 月	70	1	2	4.1
合 計		21	22	平均 4.0

(3) 入所申し込みについて

- ・ 30 年度末での入所待機者数 **23** 人

内、介護保険施設等に入所中 **4** 人 医療機関入院中 **15** 人
在宅生活 **4** 人

3. 短期入所生活介護利用状況

延利用者数

介護度別	要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	合計	稼働率 %
30年 4月	6	0	22	64	81	78	0	251	83.7
30年 5月	5	0	13	69	107	88	12	294	94.8
30年 6月	6	0	17	75	104	44	0	246	82.0
30年 7月	3	0	37	104	72	41	28	285	91.9
30年 8月	9	0	15	84	50	81	31	270	87.1
30年 9月	6	0	16	92	76	65	30	285	95.0
30年 10月	4	0	27	73	81	58	31	274	88.4
30年 11月	6	0	32	78	77	65	30	288	96.0
30年 12月	3	3	20	66	66	51	31	240	77.4
31年 1月	3	3	25	66	54	68	15	234	75.5
31年 2月	3	3	38	69	79	20	28	240	85.7
31年 3月	3	3	36	78	91	15	31	257	82.9
合計	57	12	298	918	938	674	267	3,164	86.7
30年度	延利用者数		3,164	一日平均利用者数		8.7人	稼働率		86.7%

(小数点第2位四捨五入)

※ 30年度延利用者数状況（満床数 3,650人）

年間延べ利用者数は **3,164** 人で、一日平均 **8.7** 人で年稼働率は **86.7%** となり、入所の空所利用は **14** 日（**5** 人）

4. 分野別重点計画振り返り

	重点取り組み方針	取り組み状況と課題
自立支援介護	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の個々の楽しみを見つけて、日々充実した生活を送れるよう、24時間シートに基づいてケアの統一を図る。 ・排泄向上に向けて、毎月の排泄向上委員会を中心に、個々にあった排泄自立支援を検討する。また便秘傾向の利用者に対して、多職種協働で自然排便を目指す取り組みを実施する。 	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間シートの作成、見直しは例年通りに行なえたが、24時間シートを活用してのケアの統一までは繋がっていない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・24時間シートの活用とケアの統一を図る。 <p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄委員会を中心に、個々にあった排泄方法を考え、トイレ誘導等についても利用者の状態に合わせた介助が行えた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・緩下剤や坐薬等を使用する方が増えており、多職種協働で出来る限り自然排便へ向けた取り組みが必要。
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・事故防止対策として、常に危機意識をもって、ヒヤリハットをもとに様々なリスクに関し、事故防止委員会で安全対策の検討と徹底に努める。 ・様々な事故を想定して緊急対応訓練を実施し、事故発生時の速やかな対応が出来るように備える。 	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故防止委員会を中心に事故の対策は行ったが、ヒヤリハットを基に、事故を未然に防ぐような対策は出来ていなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事故発生前の兆候や利用者の状況の変化に早く気づきを持ち、早めの対応ができなかったかの視点を持つことが必要 ・ヒヤリハットの活用が必要。 ・委員会では各フロアの報告会になっていた為、会議の内容の検討が必要である。

不適切ケア対策	<ul style="list-style-type: none"> ・不適切ケア防止対策として、真摯に利用者の声に耳を傾け、自身の行動確認を行えるように体制づくりを行い、身体拘束も含め研修・指導を徹底する。 	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月の事故防止委員会や主任会議等での不適切ケアについての確認や気づきなど意見交換を行う機会を設けている。しかし利用者に対する言葉づかいや言動、対応についての苦情報告の例も挙がっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者に対する言葉使いや対応が気付かないうちに不適切なケアとして受け取られることがあり、職員同士の声かけ、業務中の緊張感が必要である。
ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・入退所に基づく利用者の情報共有（カンファレンス）を密に行い、支援体制をさらに強化する。 ・ケアプランに関する「経過記録」について、パソコンソフトなどでの記録方法の見直しを行う。 	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランの経過記録をちょうじゅ記録へ移行し活用ができた。提出期限も守られ、職員の負担感の軽減も図れた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各フロア、職域の人員の問題や行事、入浴の予定などあり毎月のカンファレンスの実施、調整難しくなっている。各職域で時間調整を行っていく必要がある。
環境衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・常に施設の清潔・整頓を心がけ、利用者が快適に生活できるように、職員による清掃チェックとそのフォローを確実に行う。 ・感染予防対策として、毎月の感染対策委員会を中心に、全職員に研修指導を行い、「持ち込まない・拡げない・持ち出さない」の感染予防三原則を実践する。 	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロア内の掃除が不十分な部分もあったが、介護サポーターの入職もあり、掃除が行き届くようになった。 ・毎月2回の掃除チェックを実施。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・職員の清潔・不潔の標準的な感覚や環境衛生についての気づきが不足している。

<p style="text-align: center;">防火・ 防災・ 防犯対策</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月の夜間想定 of 防災訓練を継続実施する。また、災害避難計画に沿っての避難訓練及び防犯対策としての不審者対応訓練を実施し、確実に個々のスキルとして定着できるようにする。 	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練は毎月実施することで、訓練の意味や、行動が定着しており、対応が素早くなっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防犯訓練は、訓練回数が少ないため職員が行動を理解することが出来ていない。訓練時の行動が定着していない。 ・ BCP 計画の見直し
<p style="text-align: center;">地域交流</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域の幼児・小学生・中学生の施設訪問や交流学习を積極的に実施し、「介護」の普及に努める。 	<p>【取り組み状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学生、中学生の施設訪問の機会が持てなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小中高の学生のボランティアや施設訪問を積極的に行い、「介護」の普及が必要。

4. 会議・委員会開催状況

(1) 主任会議等	13 回
(2) フロア・ユニット会議	70 回
(3) 入所検討委員会	13 回
(4) 事故防止・事故事例検討会	25 回
(5) 衛生委員会	12 回
(6) 法人苦情解決委員会	1 回
(7) 感染対策委員会	15 回
(8) 身体拘束廃止委員会	11 回
(9) 広報委員会（法人合同）	5 回
ふるさと便り	169 号～171 号（4 事業所合同）
	3 回発行
(10) ケアカンファレンス	19 回
モニタリング	73 回
(11) 栄養ケアカンファレンス	17 回
(12) 褥瘡防止委員会	8 回
(13) 給食委員会	14 回

(14) 医療委員会	6回
(15) レクリエーション委員会	4回
(16) 排泄向上委員会	13回
(17) 防災委員会（法人防火管理者）	2回
(18) 法人ケアマネ連絡会議	4回
(19) 法人事業所連絡会議	12回

5. 研修会参加状況

(1) 施設外研修

西海市、県社協、県老協、施設研修等の各研修会に **90** 回参加した。

(延 **138** 人)

(2) 職場内研修

- ・ 職場内におけるスキルアップ研修・復命会実施
- ・ 介護技術、褥瘡防止、身体拘束廃止、虐待防止、事故防止、感染症対策、ケアの向上、クレーム対応 認知症、医療、衛生教育等について、毎月1回の月例研修、及び随時の業務研修 **22** 回実施した。
- ・ 毎月の法人事業所連絡会議とケアマネ連絡会議等で役職者へ事業所の円滑な運営のための各研修を実施。
- ・ 全法人での継続研修として、外部講師による管理者・リーダー・サブリーダーを中心に業務改善活動研修を継続した。また、外部講師には **4** 回 **QC** サークルレビューとして職域ごとにアドバイス、助言を頂きながら進捗状況の確認を行う。
- ・ **3** 月 **5** 日には職域ごとに業務改善活動の発表を実施した (**10** 職域)
- ・ 新任職員研修会を **4** 回実施。(入職 **3** 年未満対象)
- ・ 全法人で講義と演習にて基礎概論及び目標設定を行った。
- ・ 入職 **1** 年未満には、介護技術「新任職員研修マニュアル」に添って **OJT** 研修、プリセプター制度により個別指導育成を行った。
- ・ 長崎県喀痰吸引研修の現地研修に特養の介護職 **1** 名が参加した。

(3) 資格取得

- ・ 介護福祉士 **3** 名
- ・ 介護プロフェッショナルキャリア段位制度レベル **2** - ②認定者 **1** 名
- ・ 認定特定行為業務従事者 **1** 名

- ・ 社会福祉主事任用資格 1名

6. 福利厚生・労務管理

(1) 健康診断

- ・ 雇入れ時、5月に全職員、10月夜勤職員を対象に実施。
診断結果について、生活習慣病の傾向が強く、産業医の所見を基に衛生管理者による全職員に細やかな個別面談と衛生教育を実施した。
- ・ 治療が必要な職員の継続指導を実施している。

(2) ストレスチェック制度

- ・ 労働安全衛生法第 66 条規程に基づき、産業医の管理指導のもと、全職員のメンタル面の不調者を未然に防止を目的とした、心理的な負担の程度を把握するための検査「ストレスチェック」を実施した。結果については個人面談等を行い、職場環境の診断と改善についての課題を検討した。

7. 感染症予防対策

昨年に引き続き長崎西彼保健所より、最新の感染発症動向調査を情報収集し、嘱託医指導管理の下、感染対策委員会開催や研修会等での周知、予防対策、労務管理に努めた。

(1) 健康診断・美化衛生

- ・ 8月31日に長崎健康事業団による全利用者の結核健康診断を実施。
毎月の業者による害虫駆除と及び職員による清掃チェックを実施した。

(2) インフルエンザ予防対策

- ・ 11月利用者及び職員のインフルエンザ予防接種を実施した。
- ・ 感染対策として、10月よりマスク着用と1月11日～3月10日面会者の全面制限を実施。職員にはタミフル予防投薬を実施し、勤務に支障なく施設への感染持ち込みを防止できた。

8. 防災対策

(1) 防災訓練

- ・ 避難訓練（夜間時想定訓練も含む）11回、消火訓練2回、通報訓練9回、防災教育12回、夜間出動訓練2回を実施。

- ・ 総合訓練 **2**回（**11**月**6**日・**3**月**12**日）
佐世保東消防署西彼出張所の立会指導のもと、避難訓練を実施した。
- ・ 消防設備点検立入検査（**9**月**25**日）
佐世保東消防署西彼出張所立会いでの点検
- ・ 法人ふるさと地域連携防災協力会議（**11**月**26**日）
佐世保東消防署西彼出張所、行政、消防団、地域 法人役員参加し協力連携を図る。
- ・ **7**月**3**日の台風7号接近による長期停電を受け、**8**月**22**日外部講師を招き、豪雨災害を想定したグループワークを行い、災害対策計画の見直しを法人全体で行った。

（2）防犯対策

- ・ 防犯対策研修（不審者対策マニュアルの周知と留意点について）を実施。

9. 長崎県指導監査

12月**20**日に実施。指定介護保険法に基づく指定介護老人福祉施設等の実地指導。運営面で概ね良好との評価。

10. 地域貢献

- ・ レスキュー事業
 - ・ 西彼・西海ブロックの幹事法人として生活相談員・当法人居宅支援事業所管理者と連携し生計困難者レスキュー事業を継続実施。
 - ・ 問い合わせ・相談受付 **19**件で昨年より **6**件減少。内 **14**件を他法人へ連絡照会し、**1**件を支援対応実施した。

11. 行事

- （1）**6**月**21**日 ゲーム大会（四事業所利用者、家族会、職員参加）
- （2）**7**月**28**日 ふるさと夏祭り //
- （3）**9**月**17**日 ふるさと敬老会 //
- （4）**9**月 利用者ご家族アンケート実施
- （5）誕生会 利用者家族会役員、地域関係者招待し毎月実施
- （6）法話 町内 **5**か寺、佐世保市 **1**か寺に依頼し、**10**回実施

(7) レクレーション

毎月10日に季節のメニューに応じた食事会（お楽しみ献立）や、各フロアでの調理レク（おやつ作り）リハビリを兼ねての野菜作り、園芸、各フロアでの誕生会やドライブ等を実施。

1.2. 実習生受け入れ 地域との交流等

7月12日 川内地区福祉講演会 介護保険制度、熱中症について講義を行う

11月3日 介護のしごと魅力伝道師・末長介護職「いいね、いいまち、いい介護トークショー」参加

11月27日 九州文化学園高等学校インターシップ 高校**3**年生**1**名を受け入れ

2月20日 大瀬戸町 **NPO** 法人民泊事業のヘルシーメニュー開発支援に管理栄養士等**2**名が協力

1.3. ボランティア・慰問・訪問等受け入れ

- ・ 個人ボランティア 夏祭り 職員家族他 **19**名
- ・ 企業ボランティア **2**回 三菱労働組合長船支部 **15**名
- ・ 舞踊・演奏等訪問 **4**回
- ・ 西海市文化協会出前講座・西海ジュニア合唱団 ・B P B B（月ちー）
- ・ 大正琴「寿会」 **6**名
- ・ 大阪チェンバーオーケストラ演奏会 **10**名
- ・ 崎戸町今徳様ほか **11**名
- ・ 太田和老人会訪問 **10**名
- ・ 西彼町民生委員児童委員協議会訪問 **7**名
- ・ 特別養護老人ホームファミリーユ **6**名

1.4. 施設見学及び入所相談

- ・ 入所相談・施設見学（個人） **39**件

1.5. 面会者数

年間 **4,801**人 一日平均 **13.2**人

平成 30 年度事業報告「居宅介護支援センターふるさと」

1. 事業概況

2025 年に向けて行政が取り組む地域包括ケアシステムの推進にあわせ、居宅介護支援事業所として、住み慣れた地域で暮らす要支援・要介護者に対して、在宅サービスのプランを作成し、サービスの展開を実施した。

また、社会福祉法人の地域貢献事業として、福祉事業や介護保険制度等への疑問や、超高齢化社会に伴う「認知症患者の増加」での対応について、「介護教室」の開催や、地域の老人会が主体として実施されている、「いきいき体操」等へも出向き、介護予防の重要性や地域の問題点等の意見を聞く機会へも取り組みを実施した。さらに、今年度も生計困難者レスキュー事業へ取り組みを特養相談員と一緒に実施した。

また、法人役員として各事業所の「不適切ケア」一掃を目的として、「認知症の理解と対応」について、スキルアップ研修・指導を行った。

2. 利用状況

月 別	介護予防利用者	介護支援利用者	計
H30・4月	2人	31人	33人
5月	2人	32人	34人
6月	2人	31人	33人
7月	3人	29人	32人
8月	4人	25人	29人
9月	4人	26人	30人
10月	4人	27人	31人
11月	4人	26人	30人
12月	4人	24人	28人
H31・1月	4人	25人	29人
2月	4人	24人	28人
3月	4人	26人	30人
合 計	41人	326人	367人

※ 月平均 介護 326人÷12ヶ月=27.2人
 予防 41人÷12ヶ月=3.4人
 計 367人÷12ヶ月=30.6人

※ 居宅介護支援利用者については、在宅での支援が困難になった場合に、利用者の状況を検討して法人施設への紹介を行っているため、利用者の変動がある。

3. 活動状況

(1) 介護認定訪問調査（長崎市役所委託分）

月別	人数	月別	人数
H30. 4月	1人	10月	2人
5月	0人	11月	0人
6月	3人	12月	0人
7月	0人	H31. 1月	1人
8月	3人	2月	0人
9月	2人	3月	1人
合 計		13人	

※ 13人÷12ヶ月＝1.1人（月平均）

※ 長崎市より介護保険認定に係る訪問調査を、在宅・西海市内病院・施設等を訪問し実施する。

(2) 「介護教室」の開催

○5月16日（水）10:00～11:30

西海市出前講座にて崎戸町の皆さんへ介護保険制度・法人施設料金等の説明と意見交換会を実施。特養・サポートセンター等施設見学

○7月12日（木）11:00～12:00

西海町川内地区住民対象に地区で開催の安全対策講演会と同時に介護教室を実施。平成30年介護保険制度改正に伴い自立支援へ向けての説明・意見交換会を実施する。

○8月23日（木）11:00～12:00

西海市民生委員協議会西彼町部会8名来所にて、平成30年4月介護・医療保険制度改正に伴う説明と意見交換を実施。

○8月31日（金）

西海町太田原地区老人会「わいわい倶楽部」来所にて、平成30年4月介護・医療保険制度改正に伴う説明と意見交換を実施。

○10月12日（金）

西海市民生委員西海町高齢者部会6名来所にて、平成30年4月介護・医療保険制度改正に伴う説明と意見交換を実施。

○2月22日（金）18:30～20:00

平成30年度長崎地域リハビリテーション広域支援センター西海市ブロック研修会に参加し、法人理事として「認知症グループホームでの生活リハビリ」について、発表を行い、介護・医療面でのリハビリについて意見交換を実施する。

○2月25日（月）10:30～11:30

木場地区「いきいき体操教室」へ参加して、介護保険制度・認知症予防対策・小規模多機能居宅介護・サービス付きシニアマンション等の入居について説明・意見交換を実施。

(3) 地域ケア会議

○4月19日・10月18日 西海圏域ケア会議

○6月29日(金)19:00～21:00 平成30年度第1回西海市全体ケア会議

○8月23日(金)19:00～21:00 西彼圏域ケア会議

○10月17日(水)13:00～16:30 長崎市自立支援型ケア会議

○2月12日(火)19:00～21:00 平成30年度第2回西海市全体ケア会議

○2月27日(水)19:00～21:00 平成30年度西彼地区在宅医療・介護連携強化研修会

※ 圏域内事例を通して専門職で意見交換・情報交換を行う。

(4) 施設外研修会について

介護支援専門員の質の向上を目的として、県内外への研修へ参加 **17回**

(5) 法人事業所内研修

法人幹部研修を初めコーチング・管理職研修へ参加 **11回**

(6) 法人介護支援専門員連絡会議

法人の各施設・居宅の介護支援専門員での情報交換・介護支援専門員としてのスキルアップを目的として、毎月会議を実施し利用者のより良い生活・地域住民の生活について、研修会を実施している。又、長崎県・西海市の介護支援専門員協議会へ入会し、各研修会等への参加も実施している。

(7) 生活困難者レスキュー事業

特養相談員と一緒に西海市・長与・時津地区の幹事法人として、在宅で生活に困窮されている、すべての方の相談を受け付けて登録法人への引き継ぎや、自宅を訪問し支援を行う。

(8) 地域防災対策連携会議

社会福祉法人として地域貢献の為に、法人施設の防災・防火に対して取り組みや設備等の説明・意見交換を地域・行政・消防・警察等と実施。有事の際の施設機能の役割等を地域と共に共有し、法人より地域に対しての協力と貢献内容等を話し合う。

4. 分野別重点計画振り返り

	目標と目標達成計画	取り組み状況と課題
自立支援介護	4月からの改正にて、病院より在宅へ戻って生活する利用者が増加する事は間違いない為、各事業所との連携を今まで以上に密に取り合い、住み慣れた町で地域と一緒に生活出来るよう支援する。ケアマネとして医療との連携を今まで以上に取り合い加算等へ反映させる。	<ul style="list-style-type: none"> ・30年4月改正での入院加算については、病院の担当者について3日以内の情報提供を実施。退院加算については病院側からの退院前カンファへの参加依頼が少なく加算は出来なかった。利用者への情報交換は常に実施していた。 ・今後は利用者が在宅へ戻って自立した生活出来るように引き続き支援する。
安全対策	在宅での生活の中で、ご利用者の状態に合わせた住宅改修・福祉用具貸与等を病院医師・リハビリ専門職・家族と協議し、生活での疾病前の状況で安全に生活が行なえるよう支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態に合わせた住宅改修・福祉用具貸与等を、病院医師・リハビリ専門職・家族と協議し、疾病前と同様の状況で安全に生活が行なえるよう支援することができた。 ・地域包括病棟からの退院でリハビリを実施され在宅へ戻る利用者も増えているため、退院前にPT等と自宅確認を一緒に実施し、自立支援に向け改修等を実施した。
ケアマネジメント	在宅で疾病前の生活に近づく為のサービス等を本人・家族と充分協議・説明し、利用者が在宅で生活する目的・意義等をしっかりプランに位置付けていく。その人らしいプランを作成する。	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の自立支援に向けて在宅で生活可能なプランを本人・家族の意思を尊重し作成することができた。
地域交流	昨年から引き続き、西海市包括支援センターや健康福祉課・地域老人会等とコミュニケーションをとりながら、「介護教室」「認知症研修」「介護予防」等、地域が困っている事を重点的に、専門的知識を地域の皆様に理解して頂けるように地域へ出かけ実施したい。	<ul style="list-style-type: none"> ・制度改正・認知症予防の「介護教室」等を複数回開催したものの、定期的開催することはできなかった。

平成30年度事業報告「グループホームふるさと」

1. 事業概況

家庭の延長としてのグループホームの機能・役割を認識し、趣味や生活歴を活かしたレクリエーションや生活リハビリ、家族や地域との交流などを取り入れた行事計画に沿って活動を展開した。

平成30年度は、ご利用者の平均介護度が年間を通して1.7～1.9であり、前年度に比べて身体的に元気なご利用者が増えた事によって、グループホームでは最も重要な、認知症への対応を再勉強する機会が多くあり、前年度からQC活動のテーマとして掲げている『不適切ケアをなくす』事が、益々の課題となった。

地域密着型サービス事業者の義務である「運営推進会議」を、併施設設である小規模多機能ホームふるさとと合同で開催。避難訓練や事業所行事（もみじ祭り）と合わせて開催することで、ご出席頂いた運営推進会議委員である利用者様ご家族・行政・地域・福祉関係者と、介護保険制度や活動状況、地域との交流活動などについて、更に幅広い意見交換ができた。

地域の認知症高齢者が増加すると共にグループホーム待機者も増加しているが、全国的に深刻化している介護人材不足は当事業所も例外ではなく、待機者の受け入れが厳しい状況となっている。

2. 利用状況

項目	今年度	前年度	対前年比	
年間延べ満床者数	6,570名	6,570名	—	—
年間延べ利用者数	6,486名	6,498名	99.82%	↓
延べ入院・外泊日数	187日	99日	188.89%	↑
年間延べ実利用者数	6,299名	6,399名	98.44%	↓
実稼働率	95.9%	97.4%	98.46%	↓
延べ未契約日数	84日	72日	116.67%	↑

3. 入退所状況

	種 別	人 数	備 考
H30年8月	退 所	1名	長期入院のため
H30年8月	入 所	1名	在宅より
H30年10月	退 所	1名	特養転所のため
	入 所	1名	在宅より
H30年11月	退 所	1名	長期入院のため
	入 所	1名	在宅より
H31年2月	退 所	1名	長期入院のため

○ 入所者総数：3名

○ 退所者総数：4名

4. 入所者状況（平成31年3月31日現在）

入居人数	17名（男性／3名 女性／14名）		
要介護区分（平均介護度：1.8）			
要支援2（0名）	要介護1（9名）	要介護2（3名）	
要介護3（4名）	要介護4（1名）	要介護5（0名）	
年 齢	平均 88.9歳（最低／79歳）（最高／99歳）		

5. 分野別重点計画振り返り

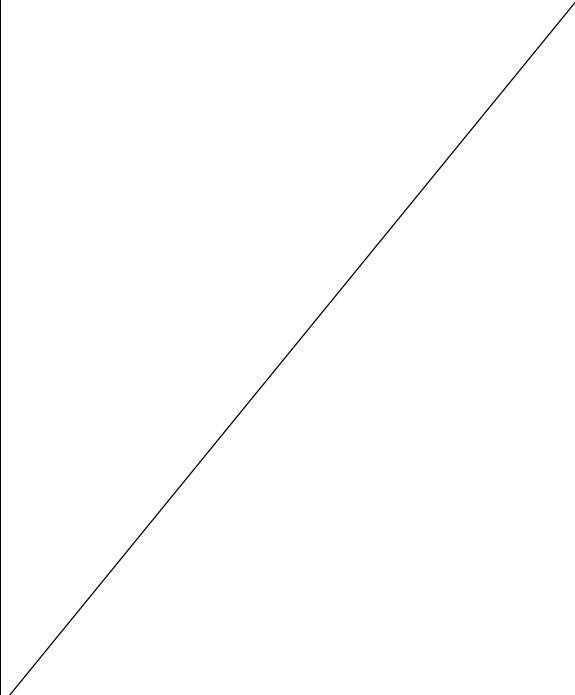
	目標達成計画	取り組み状況と課題
自立支援介護	<p>ご利用者が、自分の“できる能力”を維持しながら、意欲を持って穏やかな生活を過ごして頂けるように、グループホーム職員として、勉強会を実施する事で認知症の理解を深め、ご利用者ごとの『ひもときシート』を作成して、各ご利用者をひもとき理解する事で、個人の認知症に合わせた適切なケアを行う。</p>	<p>ご利用者個々を理解するツールとしての『ひもときシート』を実施するにあたっての勉強会等が実施できず、活動をほとんど進める事ができなかった。現時点で職員が実施できる身近なツールを使って、ご利用者の理解に努めたい。</p> <p>今年度の目標達成計画に、排泄に関しての自立支援を挙げて、毎月“排泄モニタリング”を行い、ご利用者に合わせた排泄用品の使用等を検討した。紙パンツから布パンツへ復帰できたご利用者もおられるので、継続して行っていきたい。</p>

安全対策	<p>ご利用者の安心・安全な生活を守るため、事故・ヒヤリハットについて、職員全員が“気づく力”を常に意識して、報告書の提出は迅速に行い、リスクの把握や危険性の排除、再発防止策の検討・実施を行う。</p>	<p>骨折に繋がる転倒事故が3件発生した。事故・ヒヤリハットの報告書提出を迅速に行う事はできていたが、提出後の検証や再発防止策の検討協議・対策の実施が、重大な事故以外では殆どできていなかった。ヒヤリハットの提出件数を多くする事で意識付けを図ったが、今後はさらに、ヒヤリハットの中から同様のケースを詳細に検証し、対策を行う事で、重大事故に繋がらないようにしたい。</p>
------	---	--

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">不適切ケア対策</p>	<p>ご利用者が自分らしく、穏やかに生活できる環境にするため、“不適切ケア”を今年度のQC活動の課題として取り組みを行う中で、毎月のユニット会議で自分たちの“不適切ケア”について話し合う機会を持ち、言葉遣いや対応について、現場でお互いに注意し合いながら、不適切ケアを撲滅する。</p>	<p>QC活動の課題として“不適切ケアをなくす”事をテーマに、毎月のユニット会議で『虐待の芽チェックリスト』を継続して実施した。法人業務研修で身体拘束や虐待の研修も受け、半期に1度具体的事例についてのアンケートも実施した。大半の職員が不適切ケアをしないという認識はできたと思われるが、一職員が自己判断で行うケアに問題があった場合に、注意し合える関係性が不足していた。最終的にチーム全体を巻き込んだ“不適切ケアをなくす”取り組みにできず、大きな反省点となった。</p>
--	--	---

ケアマネジメント	<p>ご利用者やご家族の意向に沿ったケアプランを作成し、その方の心身機能の維持、健康増進、障害の回復等を目指すケアを行うため、ケアプランのサイクルを整理する。その中で職員全員がご利用者それぞれの支援内容を把握し、共通した支援を行う。</p>	<p>アセスメントに基づいて、身体機能や認知機能を確認し、個々のご利用者のできる能力・できそうな能力を維持・向上させる活動や対応を行う事を意識してケアプランの項目に入れ、支援に努めている。現時点では支援経過記録が手書きの担当者が多いので、今後は統一してモバイル入力ができるようにしたい。また、家族アンケートの結果から、ご家族にもっとケアプラン作成に関わって頂くよう働きかけていきたい。</p>
環境衛生	<p>常にご利用者の安全で衛生的な生活環境を整えるために、毎月、施設美化担当が掃除・設備のチェックを行い、危険箇所やリスクの可能性を発見して、職員全員で整えていきたい。</p>	<p>施設美化担当による「掃除チェック」を毎月実施したが、定期的な掃除の日を決める事や、担当以外の職員への意識付けなどは不足していた。2月に施設内を徹底して掃除、整理を行ったので、現状を維持するためのしくみづくりが必要。また、感染予防対策として加湿器を購入し、ご利用者の居住スペースに使用している。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">防災対策</p>	<p>職員全員が、有事の際に状況に適した動きができるよう、職員全員が積極的に訓練に参加し、防災・防犯に関して、どこに何があるか、どのような設備があるか、道具の使用方法や避難場所などをしっかりと認識する。</p>	<p>備蓄品（水、米、缶詰）を新たに購入して入れ替えを実施。7月に発生した台風による長時間停電の際の不備や不足についての反省を活かして、物品の備蓄（照明器具や電池等）も徐々に揃え、保管場所は一箇所にまとめることができた。また、BCPの内容の見直しや、法人内の防火管理者会議の中で、あらゆる災害発生時に適切に対応する事を目指して「災害対策タイムラインマトリックス」を作成中である。</p>
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人材育成</p>	<p style="text-align: center;">/</p>	<p>法人研修室の年間研修計画に沿って、法人内外の研修に参加。QC活動の定着化を図ったが、グループホームの“不適切ケアをなくす”事をテーマとした活動は進める事が難しく、他の職員を巻き込めなかった。しかし、これまで管理者やリーダーが研修を通して身につけたことを活かすためにも、職員全員で取り組めるテーマ設定で、改めてQC活動を開始したい。</p>

地域との交流	<p>ご利用者が“地元で暮らしている”という思いを維持できるよう、地元の行事への積極的な参加や、馴染みのある場所への個別外出を実施する事で、ご利用者の生活歴などを知り、日頃の活動や信頼関係づくりに活かす。</p>	<p>地域の方（ご利用者がかつて勤めていた保育所）から秋祭りにお誘い頂いたので、積極的に参加し、外出にはご家族が対応して下さいました。地域の行事を情報収集してこちらから出向くのみでなく、ご家族や地域の方から情報を頂きお誘いを頂く事で、その方の生活歴に関する個別外出の機会に繋がる。今後ご家族や地域の方との関わり方を、より充実させていきたい。</p>
施設管理		<p>① 中庭と坪庭の腰壁に使用している木材のラティスの劣化が激しく、破損箇所が増えている。</p> <p>② 床暖房設備（水を循環させる機械）が経年劣化により故障中。数週間おきに水を補充すれば使用可能だったが、現在は補充してもエラーが出て運転不能の状態である。</p>

6. 運営推進会議の開催状況

以下の構成員にて6回の運営推進会議を開催し、活発な意見交換を行った。

協議テーマに応じて、併施設である小規模多機能ホームふるさと運営推進会議と合同で開催した。

委員	利用者家族	1名	地域包括支援センター職員	1名
----	-------	----	--------------	----

	地域住民の代表	2名	西海市職員	1名
	西海市社協	1名		
施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 理事長 ・ サポートセンター長 ・ グループホーム管理者 			3人

実施状況

回	月日	場 所	参加人数	主な協議テーマ
第1回	5月18日	小規模多機能 ホーム ふるさと	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運営推進会議について ・ H30 年度改正に伴う運営規程の変更について ・ H30 年度目標達成計画について ・ 運営状況報告 ほか
第2回 (合同)	7月20日	小規模多機能 ホーム ふるさと	12名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各委員の仕事、地域での役割について ・ 小規模多機能ホームふるさと事例報告 ・ 小規模多機能ホームサービス評価における質問回答 ・ 運営状況報告 ほか
第3回 (合同)	11月11日	ふるさとシニアライ フサポートセンター	114名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 『もみじ祭り』参加
第4回 (合同)	12月11日	第2グループ ホーム ふるさと	25名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難訓練実施 ・ 各施設防災概要 ・ 意見交換
第5回	1月18日	グループホーム ふるさと	8名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 不適切ケア案件報告 ・ ご家族アンケート結果報告 ・ 合同秋祭り実施報告 ・ 運営状況報告 ほか
第6回	3月14日	グループホーム ふるさと	9名	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平成30年度外部評価結果報告 ・ 実地指導報告 ・ 運営状況報告 ほか

7. 主な活動状況

年間を通じた活動・行事
<ul style="list-style-type: none"> ・ 誕生会（その月の誕生者） ・ 3B体操（毎月2回） ・ 法話拝聴（特養にて毎月1回） ・ ふるさと書道クラブ／地域住民へ会場開放（毎月2回） ・ 習字教室（毎月1回） ・ 防災訓練（避難訓練・夜間出動訓練）（毎月1回）

主な月別行事（上記月例行事を除く）			
4月	<ul style="list-style-type: none"> 花見ピクニック（西海橋公園、七ツ釜鍾乳洞公園） こぞくら学園運動会参加 買物ドライブ 	5月	<ul style="list-style-type: none"> 雪浦ウィーク散策 母の日茶話会 ちまき作り こどもの日茶話会 買物ドライブ 大相撲勝者予想ゲーム
6月	<ul style="list-style-type: none"> ゲーム大会練習 法人ゲーム大会(特養) 七夕飾り作り 西海市文化祭観覧 調理レク（梅干し漬け） 	7月	<ul style="list-style-type: none"> 個別外出（美容院へ） 七夕茶話会 ふるさと夏祭り参加 スイカ割り大会 ドライブ（地元へ） 大相撲勝者予想ゲーム
8月	<ul style="list-style-type: none"> こぞくら学園夏祭り参加 ドライブ（お寺参り） 調理レク（ふくれ饅頭、カキ氷） 	9月	<ul style="list-style-type: none"> ふるさと敬老会リハーサル ふるさと敬老演芸会参加
10月	<ul style="list-style-type: none"> 観月会 赤い羽根共同募金 コスモス祭り見物 ドライブ（地元へ） 音楽鑑賞（特養へ） 外食（船番所、はしもとや） 	11月	<ul style="list-style-type: none"> GH・SC 合同もみじ祭り参加 第2GH 秋祭り参加 買物ドライブ
12月	<ul style="list-style-type: none"> 西海ジュニア合唱団訪問 クリスマス&忘年会 餅つき 門松作り 	1月	<ul style="list-style-type: none"> 新年祝賀会 初詣（横瀬神社、太田和神社等） 鬼火焚き 書初め 鏡開き（ぜんざい）
2月	<ul style="list-style-type: none"> 節分豆まき会（恵方巻き） バレンタインデー 	3月	<ul style="list-style-type: none"> 音楽鑑賞（チェンバーオーケストラ特養訪問） ひな祭り茶話会 ドライブ 調理レク（クッキー） ピクニックランチ

8. 会議・研修会開催状況

(1)	職員全体会議	12回
(2)	ユニット会議（ひなげし棟）	8回
(3)	ユニット会議（すずらん棟）	8回
(4)	管理者・リーダー会議	6回
(5)	防火管理者会議	4回
(6)	広報委員会	4回
(7)	月例研修	11回
(8)	管理職・リーダー研修	2回

(9)	サブリーダー研修	2回
(10)	QCサークルレビュー、活動発表会	4回
(11)	グループコーチング	2回
(12)	法人業務研修	8回
(13)	メイクアップ教室	1回
(14)	防災訓練	12回

9. 研修参加状況

【外部研修】

・ 長崎県ケアマネ研修会	2名
・ 介護支援専門員研修及び更新研修Ⅰ・Ⅱ	1名
・ 西海市地域密着型サービス事業者集団指導	2名
・ 西海市福祉施設連絡協議会 部会会議	2名
・ 虐待防止研修会	1名
・ 西海市福祉施設連絡協議会 バレーボール大会	1名
・ 認知症介護実践者研修	1名
・ 食事を意識した車椅子シーティング研修会	1名
・ 認知症高齢者の食支援研修会	1名
・ 2018年総合展示商談会（業務用食材）	1名

施設外研修会参加総数 10回、延べ 13名（昨年度延べ参加者10名）

10. 外部評価

法令に則り外部評価及び情報公表調査を受審した。

- 委託団体 (株)福祉サービス評価機構
- 訪問調査日 平成30年12月3日
- 外部評価ならびに自己評価結果

平成31年3月4日 西海市長寿介護課受理にて確定。

ワムネット(福祉医療機構)のホームページにて閲覧可。<http://www.wam.go.jp>

平成30年度事業報告「第2グループホームふるさと」

1. 事業概況

家庭の延長としてのグループホームの機能・役割を認識し、趣味や生活歴を活かした生活支援や、家族や地域との交流などを取り入れた行事計画に沿って活動を展開した。秋口から着手した施設内の大幅な改築工事により、傷んだ箇所の修繕に加え、新たに職員休憩場所を増設し、利用者・職員共に快適な空間を獲得できた。

通年で退所4件、入所4件の異動があった。入院、外泊日数は前年度の259日と比べ今年度165日と減少となった。

地域密着型サービス事業者に義務づけられている「運営推進会議」を年6回開催した。活動状況、外部評価報告、防災関係などの意見交換以外でも、秋まつりへの参加など幅広く委員との交流を行った。

地域との交流においては、地域行事へ積極的に参加し、前年から引き続き、瀬川保育園との交流など地域と関わる活動ができた。本年度は新たに横瀬保育園との交流も実施する事ができた。

職員については、11月に管理者の変更があった。管理者、リーダー会議は毎月実施しており、常に両棟の情報共有を行う事で、自らの棟の状況把握のみに終始せず、施設全体で何事にも取り組んでいくように心掛けている。

2. 利用状況

項目	30年度	29年度	対前年比	
年間延べ満床者数	6,570名	6,570名	—	—
年間延べ利用者数	6,467名	6,503名	99.4%	↓
延べ入院・外泊日数	165日	259日	63.7%	↓
年間延べ実利用者数	6,302名	6,244名	100.9%	↑
実稼働率	95.9%	95.0%	100.9%	↑
延べ未契約日数	103日	67日	153.7%	↑

3. 入退所状況

月日	種別	人数	備 考
9月	退所	1名	法人内事業所へ
	入所	1名	病院より
12月	退所	1名	法人内事業所へ
	入所	1名	老人保健施設
2月	退所	1名	長期入院の為
	入所	1名	病院より
	退所	1名	死亡の為
3月	入所	1名	病院より

○ 入所者総数：4名

○ 退所者総数：4名

4. 入所者状況（平成31年3月31日現在）

入居人数	17名（男性／3名 女性／14名）		
要介護区分（平均介護度：2.4）			
要支援2（0名）	要介護1（3名）	要介護2（8名）	
要介護3（3名）	要介護4（3名）	要介護5（0名）	
年齢	平均 89.0歳（最低／77歳）（最高／99歳）		

5. 分野別重点計画の振り返り

	目標と目標達成計画	取り組み状況と課題
自立支援介護	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の充実した生活の為に、利用者の生活への意向や希望を把握し、充実した生活を送って頂ける様に支援していく。また現状のあり方についても検討を行い、散歩、レクリエーション、機能訓練、生活リハビリなどの生活への支援を行っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・散歩や塗り絵や作品作りなどのレクリエーションをプランに取り入れた結果、毎日の実施は出来なかったが、定期的の実施することができた。 ・機能訓練については、立位訓練の実施、散歩をする事で歩行訓練も実施出来た。また退院後や疾病の回復期は、特に念入りに実施した。
安全対策	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の安全な生活のため、事故記録を徹底し、事故に対する分析と対策を講じ、安全に対する職員の意識向上に努めるとともに、事故対策の仕組みを整える。 ・毎月の事故・ヒヤリハットの集計を行い、ユニット会議にて分析・検討を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・QC活動でヒヤリハットの意識向上に向けて取り組み、各職員の意識は向上してきた。日常の会話の中で、ヒヤリハットか事故かについて考える事が増えた。 ・事故防止対策を立てたものの、同じような事故が発生した。今後は事故対策の立て方を検討する必要がある。 ・事故防止対策として、保護材を使用する事で再発防止が出来た。 ・毎日のミーティングでヒヤリハットの報告を行い、対策を立てている。 ・行政への事故報告件数は1件であった。 ・1月、職員1名がインフルエンザA型罹患し、さくら棟の利用者6名に感染し、内2名入院治療となる。発症から2週間の感染対策となり、感染予防対策の強化とマニュアルの見直しを実施した。
不適切ケア対策	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者がその人らしい生活を送る事が出来て、職員による適切な対応が出来るように、利用者の個別情報を整理して全職員が把握できるようにする。また、職員間での情報の共有を行い、利用者への統一した対応を行う。 ・不適切ケアを行わない様に、不適切ケアについての研修を計画・企画し実施し不適切ケアの防止に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・毎月のユニット会議でケアカンファレンスを行い、利用者の変化についても情報を共有し、統一したケアを心掛けた。 ・身体拘束について、毎月の安全対策委員会で話し合っている。 ・利用者に対する言動について、不適切と感じたときはその都度、職員間で注意しあう事が出来ている。

ケアマネジメント	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症の方に合った「グループホームらしいケアプラン」「その人らしいケアプラン」を作成する為に、利用者の生活歴などの情報を調べケアプランに活かしていく。 ・職員のケアプランに対する認識の向上の為、ケアプランについての研修会を企画し実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランについての研修会は実施できなかった。 ・利用者の生活歴などを、利用者家族に聞き取りを行い、可能な限りプランに取り入れて実施している。
環境衛生	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の暮らしやすい環境の為に、常に整理整頓、清潔に心がけ、事業所一丸となって清掃活動・営繕活動に取り組んでいく。また現状のあり方について検討をおこない、清掃活動の時間の確保に努める 	<ul style="list-style-type: none"> ・日勤職員や復帰訓練の職員を中心に清掃できている。 ・施設周りの清掃はあまり出来ていなかった。来訪予定がある時に急いで清掃する傾向が見られた。
防災対策	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練については、様々な火災を想定しながら引き続き実施する。他の災害時の避難訓練についても計画・実施する。 ・地元消防団との避難訓練も、引き続き実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時の避難訓練については実施できなかった。 ・毎月の避難訓練時には、様々な場面を想定し、どの職員も満遍なく実施した。 ・避難訓練後の反省を行うが、同じ様な反省が多く見られる。 ・12月に消防署立会いの下、避難訓練を実施した。
人材育成	/	/
地域との交流	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に地域との交流が出来る様に、計画的な交流に心がけ、年間を通して地域との交流が出来る様に支援していく。 ・年間での行事計画を作成する。また月1回は、ドライブや地域商店への買い物、ホーム周辺の散歩等を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・七釜コスモス祭り、さくら祭り、瀬川保育園との交流（七夕、運動会）に参加している。 ・初めて横瀬保育園のせんだん祭りに参加した。 ・ドライブや買い物の外出を行ったものの、回数は少なかった。

6. 運営推進会議の開催状況

以下の構成員にて6回の運営推進会議を開催し、活発な意見交換を行った。

委員	利用者家族	1名	地域包括支援センター職員	1名
	地域住民の代表	3名	西海市職員	1名
	西海市社協職員	1名		
施設	理事長・センター長・管理者			4人

○実施状況

回	月日	場所	参加人数	主な協議テーマ
第1回	5月17日	第2グループホームふるさと	9名	<ul style="list-style-type: none"> 運営推進会議について 目標達成計画 運営状況報告
第2回	7月19日	第2グループホームふるさと	8名	<ul style="list-style-type: none"> QC活動報告 各委員の仕事、役割 運状況報告
第3回	11月23日	第2グループホームふるさと	7名	<ul style="list-style-type: none"> 秋まつりへの参加
第4回	12月11日	第2グループホームふるさと	25名	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練実施 各施設防災概要説明
第5回	2月20日	第2グループホームふるさと	8名	<ul style="list-style-type: none"> 家族アンケート結果報告 秋まつり実施報告 運営状況報告
第6回	3月14日	グループホームふるさと	8名	<ul style="list-style-type: none"> 外部評価結果報告 運営状況報告

7. 主な活動状況

年間を通した活動・行事			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 3B体操（毎月2回） ・ 法話拝聴（特養にて毎月1回） ・ ふるさとドライブ（随時） ・ 防災訓練（避難訓練・夜間出動訓練）（毎月1回） ・ 誕生会 			
主な月別行事			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 七ツ釜鍾乳洞さくら祭り ・ お花見ランチ ・ おはぎ作り ・ こざくら学園運動会 	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 母の日茶話会 ・ こどもの日茶話会 ・ 雪の浦ウィーク ・ ちまき作り
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゲーム大会（特養にて） ・ 父の日茶話会 ・ 梅干作り 	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬川保育園との交流（七夕） ・ ふるさと夏祭り ・ 納涼ソーメン会食 ・ ホットケーキ作り
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 瀬川保育園夏祭り ・ スイカ割り ・ おはぎ作り ・ お墓参り 	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ふるさと敬老演芸会（特養にて） ・ プレ敬老会（特養にて） ・ お月見
10月	<ul style="list-style-type: none"> ・ コスモス祭り（七釜鍾乳洞） ・ お月見 ・ 出前講座バンド ・ 瀬川保育園運動会見学 ・ 赤い羽根共同募金 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 秋まつり ・ もみじ祭り（サポートセンター） ・ 瀬川保育園せんだん祭り ・ 鍋パーティー
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ケーキ作り ・ クリスマス忘年会誕生会 ・ 歳末助け合い 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新年祝賀会 ・ 獅子舞訪問 ・ 鬼火焚き ・ かがみ開き
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 室内ゲーム大会 ・ 節分豆まき ・ バレンタインデー茶話会 ・ 鍋パーティー 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ひなまつり茶話会 ・ ホワイトデー茶話会 ・ 大阪チェンバーウインド オーケストラ演奏会 ・ ガーデンランチ

8. 会議・研修会開催状況

(1) 職員全体会議	1 2回
(2) ユニット会議	1 2回
(3) 管理者・リーダー会議	1 3回
(4) 広報委員会	4回
(5) 介護・医療勉強会・復命会	4回
(6) 防災訓練	1 2回

9. 研修参加状況

【外部研修】

・第125自衛消防隊研修課程入校	1名
・子供の将来の幸福のために 今、親や地域に求められるもの	1名
・認知症高齢者の食支援研修会	1名
・福祉施設業務改善活動（QC活動）研修会	2名
・長崎県認知症介護実践者研修	2名
・長崎県認知症介護実践者研修実習報告会	2名
・これで安心、高齢者の急変時対応研修	1名
・虐待防止研修会	1名
・食事を意識した車椅子シーティング研修	1名
・D-WAT養成基礎研修	1名
・介護福祉士受験対策講座	1名
・西海市地域密着型サービス事業者等に対する集団指導の実施	2名

法人外研修会 1 2回 参加総数 延べ16名（29年度延べ参加者 17名）

10. 外部評価

法令に則り外部評価及び情報公表調査を受審した。

- 委託団体 (株)福祉サービス評価機構
- 訪問調査日 平成30年12月4日
- 外部評価ならびに自己評価結果

平成31年3月4日 西海市長寿介護課受理にて確定。

ワムネット(福祉医療機構)のホームページにて閲覧可。<http://www.wam.go.jp>

平成 30 年度事業報告「ふるさとシニアライフサポートセンター」

1. 事業概況

在宅での生活を包括的に支える「小規模多機能型居宅介護事業所」を併設し、日常生活上のサービスを必要に応じて受ける事ができる「サービス付き高齢者向け住宅」では、法人内の事業所をはじめ医療機関や他業所との円滑な連携により、切れ目のないサービスを提供する事ができた。

利用状況は小規模多機能型居宅介護が新規契約者 **3** 名、終了者が **4** 名。サービス付きマンションが新規契約者 **3** 名、終了者 **4** 名。稼働率平均は、小規模多機能型居宅介護 **89%**（※登録定員 **29** 名だが人員配置により受入定員を **22** 名に設定。平均 **19.5** 名）、サービス付きマンション **90%**（居室 **19** 部屋、平均 **16** 室）となった。

小規模多機能型居宅介護事業者に義務付けられている「運営推進会議」は **6** 回実施し、活動状況、事例紹介、防災関係の意見交換を行った。

年に **1** 回、事業所が自ら提供するサービスについて評価・点検を行い、運営推進会議において第三者の観点からサービスの評価を行う「サービス評価」を昨年同様行い、西海市に受理された。

平成 **30** 年度は、委員会活動や昨年に引き続き業務改善活動に全職員が積極的に取り組む事ができた。

また、グループホームと共同開催の「もみじ祭り」や地域へ出向いての「出前講座」を開催し、ご家族や地域との理解を深める事に努めた。

2. 利用状況

【小規模多機能型居宅介護】

	今年度	前年度
契約者（延べ）	25 人	26 人
契約終了者	5 名	7 人

【サービス付き付きシニアマンション】

	今年度	前年度
契約者（延べ）	22 人	24 人
契約終了者	4 人	8 人

3. 利用者状況（平成 **30** 年 **3** 月 **31** 日現在）

【小規模多機能型居宅介護】

利用者数	19 名	（男性／ 3 名	女性／ 16 ）
要介護区分	（平均介護度： 1.5 ）		
要支援 1 （ 1 名）	要支援 2 （ 1 名）	要介護 1 （ 9 名）	

要介護 2 (3名)	要介護 3 (3名)
年 齢	平均 89.6 歳 (最低/82 歳) (最高/105 歳)

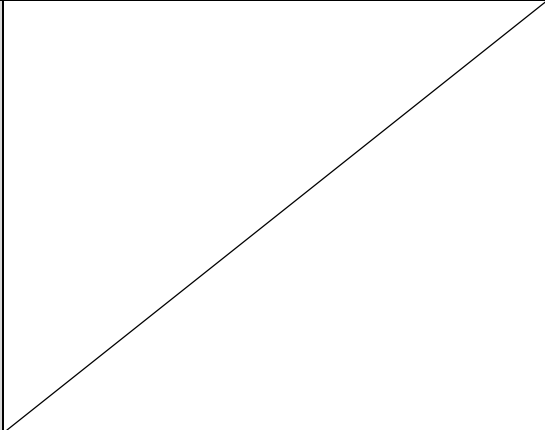
【サービス付きシニアマンション】

入居者数	18 名 (男性/2 名 女性/16)
要介護区分	(平均介護度 : 1.6)
要介護 1 (11名)	要介護 2 (3名) 要介護 3 (3名)
年 齢	平均 89.2 歳 (最低/82 歳) (最高/105 歳)

4. 分野別重点計画振り返り

	目標達成計画	取り組み状況と課題
自立支援介護	自立支援に力を入れたケアプランの作成と、職員による支援方策の理解と情報共有の徹底を目標とし、生活の中での機能向上を目指した個別計画に基づき、利用者本人が意識しながら自立支援へと繋がっていくような支援体制を構築していく。また、その過程のモニタリングや支援内容の変更・修正等の情報共有に努め、介護力を向上させる。	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援介護へ向けての支援方策や見極めを、ADL の変化に応じて担当者会議や月 1 回のケア会議の中で実施。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自立支援へ向けたケアの統一と情報の共有を昨年も課題にあげていたが徹底できていない。 ・ご利用者の中には介護に対して依存する方も多く、自立支援に向けたご利用者の意識の向上にもっと働きかけていく必要がある。
安全対策	担当者を中心にヒヤリハット報告・実践状況を毎月のケア会議の中で伝え、ひとつひとつ丁寧に検証し事故防止に努めていく。また、ヒヤリハットの傾向を分析し、次年度に活かしていけるような成果物を仕上げる。	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎月事故防止委員会を開催し、事故・ヒヤリハット検証し再発防止に向けてのルール作りに努め情報を共有していた結果か、今年度は転倒事故が少なく、入院に至る事故は 1 件もなかった。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症の進行から、同じ利用者が繰り返しヒヤリハットに上がってくるがあった。 ・居室内で転倒したにもかかわらず、本人からの訴えが無く、入浴時に内出血等で転倒した事が発覚することがあった。

不適切ケア対策	<p>不適切ケアについての意識を高める研修や対人援助技術・接遇マナー研修の実施により、「不適切ケアゼロ」を目指して、利用者へ対する声掛けや対応をしっかりと振り返る。</p> <p>必要な場合には十分な時間や回数を重ねた個別面談を実施（管理者を中心に）して、事業所全体の介護力の底上げを図る。</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 不適切ケアアンケートの実施。 ・ 虐待、身体拘束防止研修の実施。 ・ 不適切ケアに繋がるような可能性がある場面があった場合には、管理者から個別に職員に伝えたり、ミーティングや会議の際に全職員が周知するように努めている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ご利用者との会話の中で、声のトーンや声掛け等気になる場面があり、個別に指導する事もあった。
ケアマネジメント	<p>モニタリング期間に関係なく、適切なケアができているか支援内容の確認を介護支援専門員を中心に実施する。</p> <p>支援内容の変更がある場合には全職員が周知出来る様に申し送りノート等を活用していく。</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 各担当者を中心にモニタリングやサービス担当者会議の開催等しっかりとできていた。 ・ 状態の変化に伴うケアプランの変更（支援内容の変更）があった場合情報を共有し、変化に応じた支援内容の提案等が介護に携わる職員から声があがっていた。 ・ ケアマネや看護師を中心に、主治医との面談や情報提供・共有に努めた。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ご家族との情報共有に努めているが、意志の疎通ができておらず、支援方策等がしっかり伝わっていないケースもあった。
環境衛生	<p>【目標】</p> <p>感染症に対する意識にばらつきがあり、引き続き感染症対策研修の実施や個別レクチャーにより意識を統一する。</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月医療委員会を開催し、感染対策に努める。 ・ 美化委員会担当者を中心に施設内の清掃・美化チェック表を作成し環境衛生に努める。 ・ 害虫駆除（年2回） <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 感染症対策において徹底ができておらず、管理者から繰り返し指導される場面もあった。

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">防災対策</p>	<p>避難訓練の際、すべての職員が直接自動火災報知機を操作できるような訓練計画をたて、実践的な避難訓練を実施する。</p> <p>機器の操作に不安がある場合は反復して訓練に参加する。</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月避難訓練を実施。 ・ QC 活動の一環として機械室や自動火災報知機の取り扱いについての説明・訓練を実施。 ・ 雨水タンクの設置。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 繰り返し訓練をしても、自動火災報知機等実際の災害時の取り扱いがしっかりできるか不安がある。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">人材育成</p>	<p>地域に対する情報発信を通して地域貢献に努める。</p> <p>オープンホーム等地域のみなさんを招いてのイベントの計画や地域の各種団体（老人会、民生委員等）のみなさんと、介護予防通信カラオケを使ったカラオケ大会の実施を計画する。</p>	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ QC 活動の中で新任職員に対して、どういう事に不安があるのか聞きながら個別指導を実施。 ・ 経験や年齢、得意・不得意等を勘案し、働き方や業務内容の見直しを検討した。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 新任職員や法人内の移動等があった場合でも、働きやすい環境作りを提供できるように努めていく。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">地域との交流</p>		<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 介護予防出前講座の実施（木場地区老人クラブ） ・ 図書館祭り・文化祭・七ツ釜コスモス祭り等への参加。 ・ もみじ祭り開催。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 事業所として地域へ対する働きかけが少なかった。

施設管理	<p>【取組状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・天窓腐食部分工事、下水工事 ・居室ドア、建具修理 ・桜の木剪定、年2回除草作業（業者） ・エアコンコンプレッサーガス注入作業 ・雨漏り工事 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後も老朽化に伴う工事等の検討が必要になってくると思われる。
------	--

5. 運営推進会議の開催状況

以下の構成員にて**6**回の運営推進会議を開催し、活発な意見交換を行った。

委員	利用者家族	1名	地域包括支援センター職員	1名
	地域住民の代表	2名	西海市職員	1名
	西海市社協	1名		
事業所	理事長 サポートセンター長 グループホーム管理者 小規模多機能ホーム管理者 介護支援専門員			5名

○実施状況

回	月日	場所	参加数	主な協議テーマ
第1回	5月18日	小規模多機能ホーム ふるさと	9名	<ul style="list-style-type: none"> ・外部評価結果報告 ・運営状況報告 ・意見交換
第2回	7月20日	小規模多機能ホーム ふるさと	11名	<ul style="list-style-type: none"> ・各委員の地域での役割について ・事例報告 ・運営状況報告 ・意見交換
第3回	11月11日	ふるさとシニアライフ サポートセンター	10名	<ul style="list-style-type: none"> ・もみじ祭り
第4回	12月11日	第2グループホーム ふるさと	8名	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練概要説明 ・避難訓練 ・意見交換 <p>※10/7 開催予定が、台風</p>

				の為延期
第5回	平成31年 1月18日	グループホーム ふるさと	9名	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者ご家族アンケート結果報告 ・「もみじ祭り」実施報告 ・運営状況報告 ・サービス評価について ・意見交換
第6回	2月18日	ふるさとシニアライフ サポートセンター	9名	<ul style="list-style-type: none"> ・平成30年度サービス評価について ・運営状況報告 ・意見交換

6. 主な活動状況

年間を通した活動・行事			
<ul style="list-style-type: none"> ・ 法話拝聴（特養にて毎月1回） ・ 防災訓練（避難訓練・夜間出動訓練）（毎月1回） ・ 買い物支援（個人支援） ・ 脳トレーニング（不定期） ・ 誕生会（誕生月） ・ 特養誕生会参加（随時） 			
主な月別行事（上記月例行事を除く）			
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 花見ドライブ（西海橋/伊佐の浦公園/四本堂公園） ・ 図書館ドライブ ・ おやつ作り（よもぎ餅） ・ 買い物ドライブ（マツモトキヨシ・ナフコ・エナ） ・ 全体レクリエーション 	5月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 崎戸炭鉱資料館見学 ・ おやつ作り（鯉のぼりクレープ） ・ 図書館ドライブ ・ 買い物ドライブ（マツモトキヨシ・エナ） ・ 全体レクリエーション
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・ ランチドライブ（橋本屋・紫陽花見学） ・ 西海市文化祭 ・ おやつ作り（じゃが芋団子） ・ 買い物ドライブ（ナフコ・エナ） ・ 法人ゲーム大会 	7月	<ul style="list-style-type: none"> ・ 大瀬戸民俗資料館見学 ・ 大瀬戸ペーロン大会 ・ おやつ作り（フルーツあんみつ） ・ スイカ割り
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・ おやつ作り（ぼた餅/アイスパフェ） ・ お盆参り 	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・ おやつ作り（モンブラン/おはぎ） ・ 買い物ドライブ（みかんどーム） ・ 彼岸花ドライブ（琴海町） ・ 敬老会 ・ 宮古島三線サークル演奏会

10月	<ul style="list-style-type: none"> ・サラダバイキング ・おやつ作り（梅が枝餅） ・セツ釜コスモス祭り ・大島バンド出前講座 ・ランチドライブ（一魚一会） ・西海市図書館祭り 	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・もみじ祭り ・第2GH秋祭り ・おやつ作り（石垣団子） ・黒ダイヤ三楽坊演奏会
12月	<ul style="list-style-type: none"> ・西海ジュニア合唱団出前講座 ・餅つき ・干し柿作り ・クリスマスケーキ作り ・全体レクリエーション ・脳トレ 	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・新年祝賀会 ・鬼火焼き ・鏡開き（ぜんざい） ・おやつ作り（鈴カステラ） ・全体レクリエーション
2月	<ul style="list-style-type: none"> ・節分豆まき ・茶話会 ・雛段飾り ・おやつ作り（クッキー・たこ焼き） ・全体レクリエーション 	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・ひな祭り茶話会 ・お花見ランチ ・おやつ作り（おはぎ）

7. 会議・委員会開催状況

①職員全体会議	(12回)
②給食委員会	(12回)
③広報委員会	(4回)
④防災委員会	(6回)
⑤レク委員会	(8回)
⑥環境整備委員会	(4回)
⑦事故防止委員会	(8回)
⑧美化委員会	(4回)
⑨医療・虐待検討委員会	(9回)
⑩防災訓練	(12回)
⑪事業所連絡会議	(12回)
⑫ケアマネ会議	(3回)
⑬地域包括ケア会議	(3回)

8. 研修参加状況

(1) 施設外研修

西海市、長崎県老人福祉施設協議会、長崎県介護支援専門員協議会等の各研修会に10回（延べ11名）参加。

(2) 職場内研修

- ・介護保険報酬改定研修 4月
- ・業務改善活動について 4月
- ・高齢者虐待の基本 7月
- ・認知症ケアの基本 1月
- ・サービス評価について① 10月
- ・サービス評価について② 11月
- ・中長期ビジョンについて 3月

※その他新任職員研修や施設外研修に参加しての復命研修を実施。

9. 平成30年度サービス評価

小規模多機能型居宅介護事業所においては、従来の外部評価機関による外部評価の代わりに、年に1回、各事業所が自ら提供するサービスについて評価・点検を行い、その評価結果について、地域の有識者の皆さんが構成員である運営推進会議において第三者の観点からサービスの評価を行う事が義務付けられている。

・サービス評価結果

平成31年3月1日西海市長寿介護課受理にて確定。

小規模多機能ホームふるさとのホームページにて閲覧可

(<http://furusato-saikai.jp/syokibo.html>)

以上

平成 30 年度事業報告「ふるさとレスキュー事業」

1. 事業概況

長崎県内の複数の社会福祉法人による社会貢献事業「生計困難者レスキュー事業」に参加し、生活困窮者に対する相談支援事業を実施した。

○レスキュー基金への拠出金：前年度に支出の為、今年度は拠出金なし

県経営協役員としての活動

県経営協レスキュー事業担当役員として、各種研修会に講師として参加した。以下参加研修会等。()内は主催者

30.7.9 「地域における総合相談支援研修会」(県社協)

30.8.7 「生計困難者レスキュー事業長崎ブロック連絡会議」(県経営協)

30.8.8 「県経営協第1回社会貢献事業推進委員会」(県経営協)

31.2.14 「生計困難者レスキュー事業全体会議」(県経営協)

① 西彼・西海ブロックにおける活動

幹事法人として、行政や社協からの相談受付 **19** 件、うち **14** 件を同ブロックの参加法人につなぎ対応した

② CSW 設置法人としての活動

5 件の相談を受け付け、うち **1** 件について関係機関と連携して直接対応した。(現物給付額は **5,180** 円) その他の **4** 件については相談元機関にて再検討または助言支援を行った

③ 県経営協「レスキュー事業」実績 (H30.4~H31.2.1 時点)

～県内複数法人による公益的取り組みとして

○ 参加法人数：**101** 法人

○ レスキュー基金総額：**6,580,000** 円

○ 支援実績(現物給付額)：**4,307,400** 円(1件当たり平均支援額：**25,189** 円)

○ 支援状況

・年間相談受付数…**151** 件

2. 相談支援状況

(1) 直接対応した案件 5件

受付	相談者	事案タイトル	相談概要	対応及び支援内容 [支援額]
4/18	西海市 社協	57歳男性の食料、日用品の相談支援	独居生活で、仕事を退職し活動意欲低下あったが、今年の1月から就職活動を開始した。現在の手持ち金がなく、再就職手当はいつ入るか不明。食料はフードバンクで1週間～10日分は確保できた。家族関係は兄妹が市内に住み、母は施設入所中。食料と日用品をレスキューでの対応を相談される。内容受け付け、再就職手当の入金の確認や食料の確保は出来ている為、今後面談の中で再度レスキューとして支援が必要となれば連絡をもらうようにした。	受付・相談支援
5/11	長与町 社協	生活保護受給中の困窮生活	55歳女性で独居生活。生活保護受給中であるが、電気代の未払いにて電気がストップする。食料もおかしくない。福祉事務所も交えて金銭管理を行い、今後協議の場をもつよう助言した	関係機関と連携
10/5	時津町 社協	生活保護受給までの食料支援	21歳女性で、富山県の実家で義理父のDVにあい、当時付き合っていた男性の実家に逃げてきた。時津町に転居し所持金が少額と福祉課から連絡あり。生活保護の申請し、受給までの食事と精神科の受診も必要で医療費もレスキューで対応できないかと相談。社協担当者と本人と面談予定で現状の確認を依頼した。	関係機関と連携

2/22	時津町社協	夫婦と子ども二人の車中生活、食料支援	46歳女性でリウマチがあり、長距離の歩行は難しい。夫は仕事をしているが3月に15万の収入予定。住居は友人から貸してもらっていた。住居がなくなると車中での生活が予想され、母親も町内にいるが夫との折り合いが悪く、子どもたちだけでも引き取ってくれないか相談してみるよう助言する。生活保護申請は夫が拒否しているが、再度説明するよう依頼した。	関係機関と連携
3/7	西海市福祉事務所	生活保護受給までの食料、日用品の提供	57歳女性。岐阜市から借金取りから逃げ車で移動され西海市へ来られるも、残金がなくなり自殺も考えていたところを警察に保護された。内縁の夫も一緒であったが、糖尿病、心不全の悪化にて医療機関へ入院中。食料、日用品等の購入支援を実施した。	食料、日用品の購入支援 ¥5,180 3/8~4/5 生活保護受給にて終結

(2) 幹事法人として他法人に紹介した案件 14件

受付	相談者	事案タイトル	紹介先
5/2	時津町社協	生活保護受給までの食料支援	のぞみ会
5/15	長与町社協	年金受給までの食料支援	のぞみ会
5/21	時津町社協	生活保護受給までの食料支援	のぞみ会
5/24	時津町社協	給料日までの公共料金の支援	せいひ会
7/19	長与町社協	次回の生活保護受給までの食料支援	のぞみ会
8/3	長与町社協	生活保護受給までの公共料金の支援	のぞみ会
8/27	長与町社協	生活保護受給までの食料支援	のぞみ会
8/31	長与町社協	生活保護受給までの食料支援	のぞみ会
9/3	長与町社協	生活保護受給までの食料支援	せいひ会
9/3	互隣の家	生活保護受給までの食料支援	互隣の家
9/25	長崎子ども助成障害者支援センター	生活保護受給までの食料支援	のぞみ会
11/1	時津町社協	生活保護受給までの食料支援	互隣の家
2/6	長与町社協	給料日までの食料等の支援	のぞみ会
3/11	長与町福祉課	生活保護受給までの食料支援	のぞみ会

事業報告の附属明細書

社会福祉法第**59**条第**1**号に基づき報告する平成**30**年度事業報告の附属明細書については、事業報告の内容を補足する重要な事項がないため作成していません。

平成**31**年**3**月**31**日

社会福祉法人ふるさと
理事長 北島 淳朗